東郷湖・未来創造会議　会議録

日　時　　平成２３年８月５日(金)　午後１時３０分～５時２０分
場　所　　湯梨浜町役場　２階第１・２会議室　他

１．開　　会　進行：中本企画課長
　それでは、定刻になりましたので、これより東郷湖・未来創造会議を開催したいと思います。皆さんにはお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。開会にあたりまして、宮脇町長の方からごあいさつをお願いいたします。

２．町長あいさつ
　今日は皆さんお忙しいところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。これから皆さんと力を合わせて、湯梨浜の魅力創造に向けて頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（事務局：中本企画課長）
　ありがとうございました。レジュメを用意しておりますけれども、ちょっと順番を変えさせていただきたいと思います。５の協議事項としておりますけれども、東郷湖・未来創造会議の概要、ワーキングチーム会議、全体会議ということで、林の方から説明させていただきたいと思います。

３．協議事項について
（事務局：林）
　失礼いたします。この度、東郷湖・未来創造会議を立ち上げるにあたりまして、役場の皆さん、県の皆さん、そして町民の皆さんにご賛同、ご参画いただきましたことを改めてお礼申し上げたいと思います。この未来創造会議でございますが、東郷湖周辺にある資源を改めて見つめ直して、それらを活用しながら総合的なまちづくりをしていこうということで、この度立ち上げに至った訳でございます。３月に第２次湯梨浜町総合計画を策定いたしましたけれども、この計画の中にも「東郷池をまちづくりのシンボルとした総合的な魅力アップを図ります。」という記述をしてございます。それを具現化するための一つの手法ということで、本会議を立ち上げたものでございます。後程ご紹介させていただきますが、福井先生の方に総合コーディネーターということでお世話になります。この４月１日に帰省された時に、町長、副町長をはじめ、町民の皆さんにもご参画いただいて意見交換会を開催いたしました。その時に色々と皆さんの方からアイデアですとか、提言、問題点などをご指摘いただきましたことを踏まえまして、今回３つのワーキングチームをつくり、そこの中で具体的に検討していこうと考えているところです。一つは社会資本整備チームということで、東郷湖周辺の歩道整備やウオーキングコースの設定などを考えてみてはどうかと思います。それから、観

光・物産の活性化、顧客満足度開発チームということで、観光協会などの観光セクションで今、一生懸命取り組んでおりますが、地域ならではの新たな特産品づくりなどをしてはどうかという考え方もございます。また、イベント・コンテンツ開発チームということで、色々と町民の方が主体となってイベントを開催されていらっしゃいます。例えば、町民ミュージカルですとか、中華コスプレ大会ですとか、そういったものを契機として新たな活性化が図れないかということを検討してはどうかと考えています。このように、大きく３つのチームをつくって取りまとめができたらと思っています。会議メンバーについては、本日の資料に名簿を付けさせていただいておりますが、全体で４７名と多くの方々に係わっていただきながら、多くの意見、アイデアの集約を図りたいと思っております。総合コーディネーターを福井さんにお願いをさせていただき、これから全体説明を聞いていただいた後にそれぞれのチームに分かれますけれども、役場、或いは県の方々にも協力いただきながら、ワーキングチームの運営を図っていきたいと思っております。それで、この未来創造会議の位置付けでございますが、できるだけ町民主導で、日頃から思っていらっしゃること、意見、アイデアなどを言っていただきながら、多くの集約を図りたいと思っておりますし、出来得ればそれらをより具体化しながら、来年度、再来年度の予算、実際の実働部分に反映していきたいと、そういう役割をこの会議に持たせたいと考えております。あらかじめ委員の推薦依頼の際にも提示をさせていただいておりますが、日程的には本日が第１回、１０月下旬に第２回目、１２月の初めに第３回目ということで、今年度については、福井先生に来ていただいて３回の会議の中で調整を図りたいと思いますし、必要に応じてそれぞれのワーキングチームで議論を深めていただけたらと思っております。後程詳細はご説明させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

（事務局：中本企画課長）

続きまして、この度、東郷湖・未来創造会議を立ち上げさせていただきました。その中に、会長、副会長ということで、やっていただける方をお願いしたい訳ですけれども、委員の中からの互選ということで、我という方がおられましたら手を挙げていただきたいと思います。

＜特になし：事務局一任＞

それでは、事務局案としましては、

会　長　遠藤　公章（ＮＰＯ代表）

副会長　立木　てる子（まちづくり団体代表）

ということでご了解いただけますでしょうか。　（了解）

続きまして、３の講師紹介をさせていただきます。この未来創造会議の講師をお願いいたしますのは、福井　昌平様でございます。今回、総合ファシリテーターという形で、湯梨浜町のために、手弁当で講師を引き受けていただきました。福井様を紹介させていただきます。福井様は、湯梨浜町の田後出身でございます。現在、東京で株式会社コミュニケーション・デザイニング研究所代表取締役社長をしておられます。これまでにどのような活動をされておられるかと言いますと、ＣＩ戦略とか、ＣＣ戦略、ブランドエクイティー戦略、都市開発、

大型イベント開発等の新規事業開発に参加されたり、企業、都市、行政の経営戦略としてのコミュニケーション計画等の重要性を提唱されているところでございます。これまでのプロデュースといたしましては、国鉄民営化計画、例えばＪＲのネーミング開発とか、デザインの開発プロジェクトに参画されておりますし、全日空の機体デザイン開発及びＣＩ計画、社内活性化運動のトータルプロデュースに参画されているところでございます。また、県内での主なプロデュース実績でございますけれども、鳥取県「公園都市構想企画推進協議会」委員をされたり、「山陰・夢みなと博覧会」企画事業プロデュース、近年では、日本国際博覧会「愛・地球博」のチーフプロデュース、平城遷都１３００年記念事業のチーフプロデュースなど、多忙な活動をされているところでございます。それでは、これからは自己紹介を兼ねて福井様に進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（福井総合ファシリテーター）

皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました福井でございます。田後の出身で、兄弟が多いんですよ。８人兄弟の７番目で、小学校に上がる前に妹が亡くなったものですから、一番末っ子で、いつもおばあちゃん子で、おばあちゃんと一緒に芝居小屋に行ったり、おばあちゃんの囲炉裏端会議に出席させられたりして、だいたい小さい時からませていたと言われます。そういう意味で、この湯梨浜町、昔、羽合町の田後出身でございます。

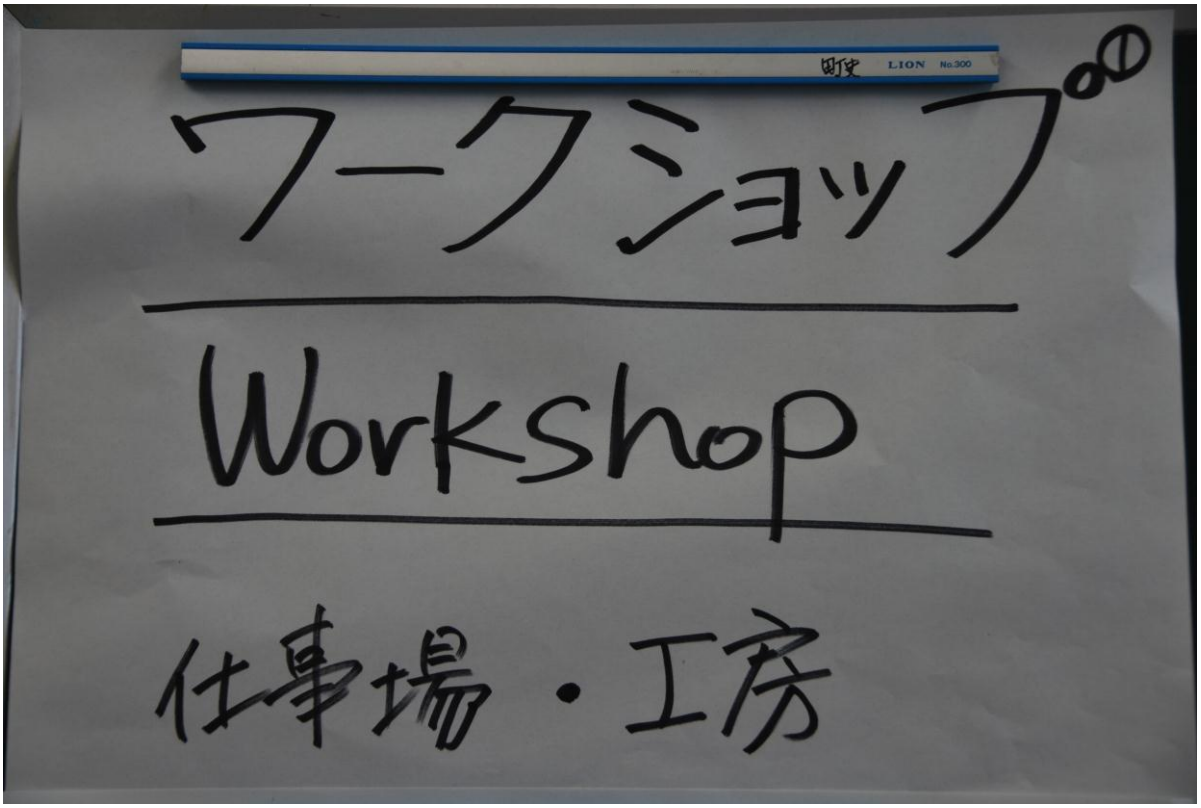
それで今、私の実績の話があったんですが、どちらかというと企業とか、地域の活性化プランを作り上げるコンサル業務をやっているのが本業でございまして、皆さんの中で「山陰・夢みなと博覧会」に行かれた方？・・・若い方が多いんですね。もう三代ぐらい前ですか、西尾知事の時代に県と係わって、ジャパンエキスポという博覧会をやらせていただきました。それまでは、７回ジャパンエキスポというのが行われていたんですが、だいたい県民人口の２倍集まれば大成功といわれていたんですけれども、実は３．１９倍の人が集まってきて、３回も台風でお休みにしたんですけれども、それがなければもっとたいへんな集客でしたね。

もう一つ、昨年、「平城遷都１３００年」というのを奈良でやったんですが、行かれた人はありますか？・・・ほとんどいらっしゃらないですね。

それから、２００５年に「愛知万博」という国際博覧会をやったんですが、行かれた方はありますか？・・・こちらはいらっしゃいますね。これらのチーフプロデューサーをやらせていただいたんですが、愛知万博の時に幅２２ｍの非常にフラットな回廊がございましたね。行かれた方はご存知ですよね。あのモデルは、とっとり花回廊でございまして、私がチーフプロデューサーをやっていたものですから、会場をつくる時にあれをモデルにしようと言って、博覧会協会の人間を名古屋からバス２台チャーターいたしまして、わざわざとっとり花回廊を視察させて、空中の回廊づくりをやったんです。

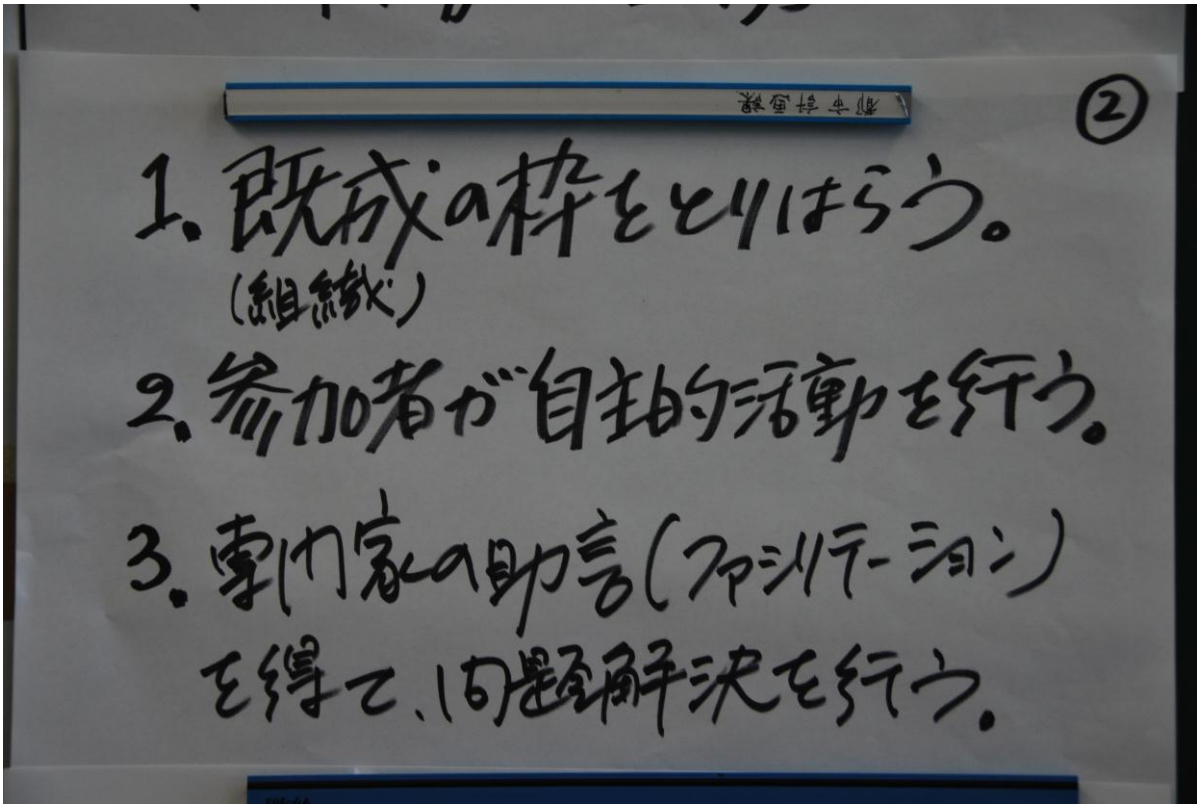
色々な形で、実は皆さんと出会っていたり、色々話をしている訳ですけれども、今日、こういう形で、東郷湖・未来創造会議のファシリテーターをやれということでございますので、一生懸命努めて参りたいと思います。

それではこれから、私のファシリテーション、水先案内と言いますかね、色々な活性化のプロジェクトを進めてきた先輩として、少し水先案内をさせていただきなから、でも、考えたり、それから、議論をしたり、アイデアを出したりするのは皆さんでありまして、よいアイデアが生まれる、そういう環境づくりをする手法としてワークショップというやり方があるんですね。ちょっと資料を用意してきました。ワークショップ方式で会議をやるというのは、なかなか経験していない人がいるんじゃないかなと思います。昨日、県の職員の皆さんと町の職員の皆さんに、一部先行的に体験していただいたんですけれども、ワークショップというのは、仕事場とか、工房とかと言います。仕事場と言うと県庁の仕事場とか、役場の仕事場とかになるんですが、そういう仕事場という意味よりもどちらかというと工房、陶器をつくっているとか、車をつくっているとか、何か工房的なイメージなんです。ワーク（ｗｏｒｋ）というのは、働くという意味もあるんですけれども、ｓを付けると（ｗｏｒｋｓ）作品という意味になります。ですから、このワークショップというのは、どちらかというと皆でワイワイガヤガヤ言いながら、例えば刀鍛冶の工房でいうと農機具をつくろうとか、或いは自動車をつくろうとか、そういうことになるんですね。



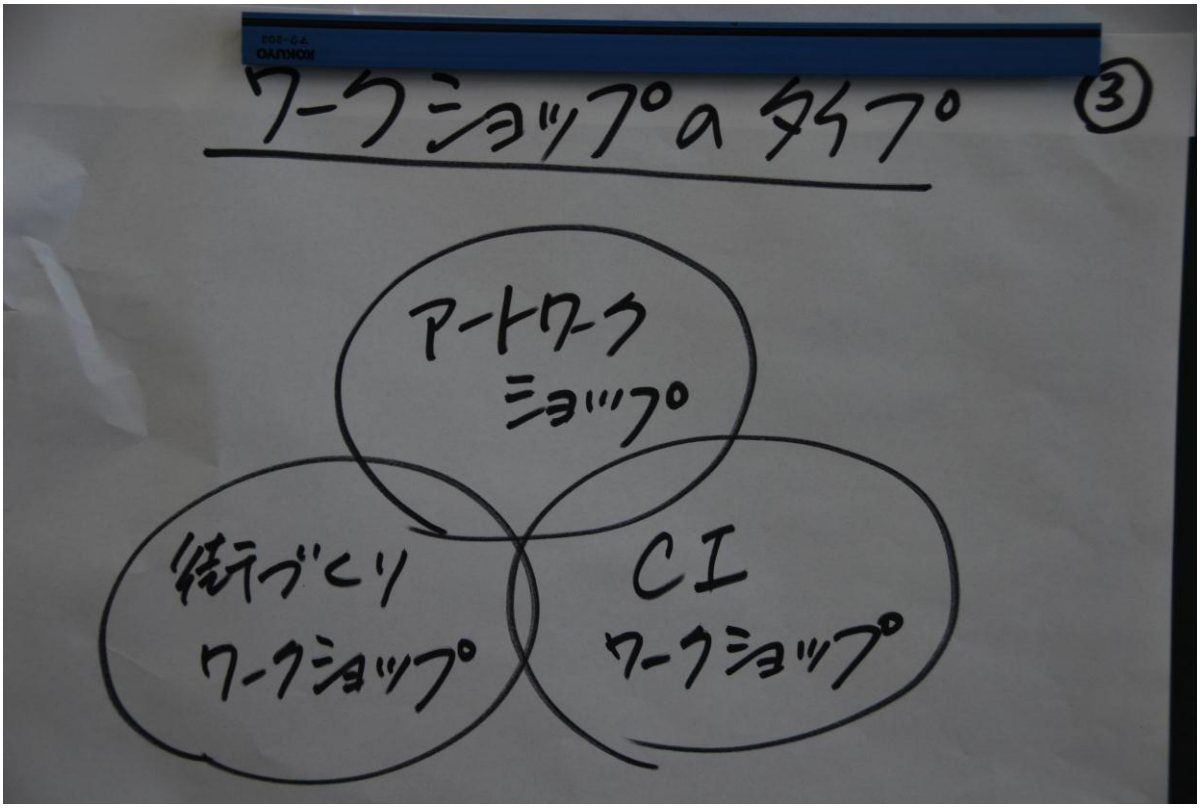
ワークショップとは？

　そのワークショップの持っている特徴というのは、まず、既成の枠を取り払う、組織の枠を取り払う、それぞれ自分が持っている専門性だとか、情報というのをなくしましょうと言っている訳ではないですよ。十分それを持ちながら、少し既成の枠を取り払ってみましょうということです。それから、参加者が自主的活動を行うということですね。自主的活動を行うというのは、要するに積極的に、誰かに言われたからやっているということではなくて、今回、公募委員の方もいらっしゃいますよね。言われたからやるのではなくて、自らがやる。それから、専門家の助言を得て、問題解決を行う。問題解決というのは、プロブレム・アンド・ソリューションと言います。問題があって、それを解決する手立てを考えるということですから、通常は役場が「皆さん意見を言ってください」というと聞きっぱなし、言いっぱなしで終わりますよね。言ったけれども、それが実現されたかどうかというのは、よく見てみないと分からない。先程町長の話がございましたけれども、それから、林さんの話がありましたけれども、できればこれは補正予算で取り組もうとか、来年度の予算の中にこの活動を取り入れようというぐらいの受ける気持ちを持っていらっしゃるそうでございますので、やはりそういう意味でいうと、実効性、問題解決をしてそれを実行するという、そういう方向性をつくっていくということが非常に大事なんですね。こういうやり方は、なかなか行政ではやられていないんです。



ワークショップの特徴

このワークショップというのは、どういうところから発達してきたか。一つは、アートワークショップといって、だいたい芸術家は皆こういう形で色々なプログラムづくりをするんです。だいたいワークショップというのは、アーティストが多いですね。まず、そこから始まった。それから、それがだんだんまちづくりの中に取り入れられ始めてきているんですね。例えば、１９７０年代の後半で世田谷区の清掃工場問題とか、どうして家のそばに清掃工場をつくるんだという話から、色々なまちづくり会議みたいなものがつくられてきたという経緯があるんですが、そういうものがあります。それからＣＩ、これは企業ですね。企業の活力創造プログラムを社員参加でやる。これはもう、殴り合いといいますか、罵倒し合いも出てくるんですけれども、とにかく社長がいけないんだ、代われみたいなね、そんなことを含めた形で、結構企業は厳しく未来計画といいますか、そういうものをやっているんですね。こういうアートワークショップとか、企業のＣＩワークショップとか、それから、問題が起きた時の街づくりワークショップ、清掃工場反対とか、廃棄物処理場反対とか、そういう時にはやるんですが、これから町の基幹になるようなプログラムをどうするんだという時には、なかなか起きていないということなんですね。そういうワークショップをしっかりやろうというのが今回のやり方なんです。

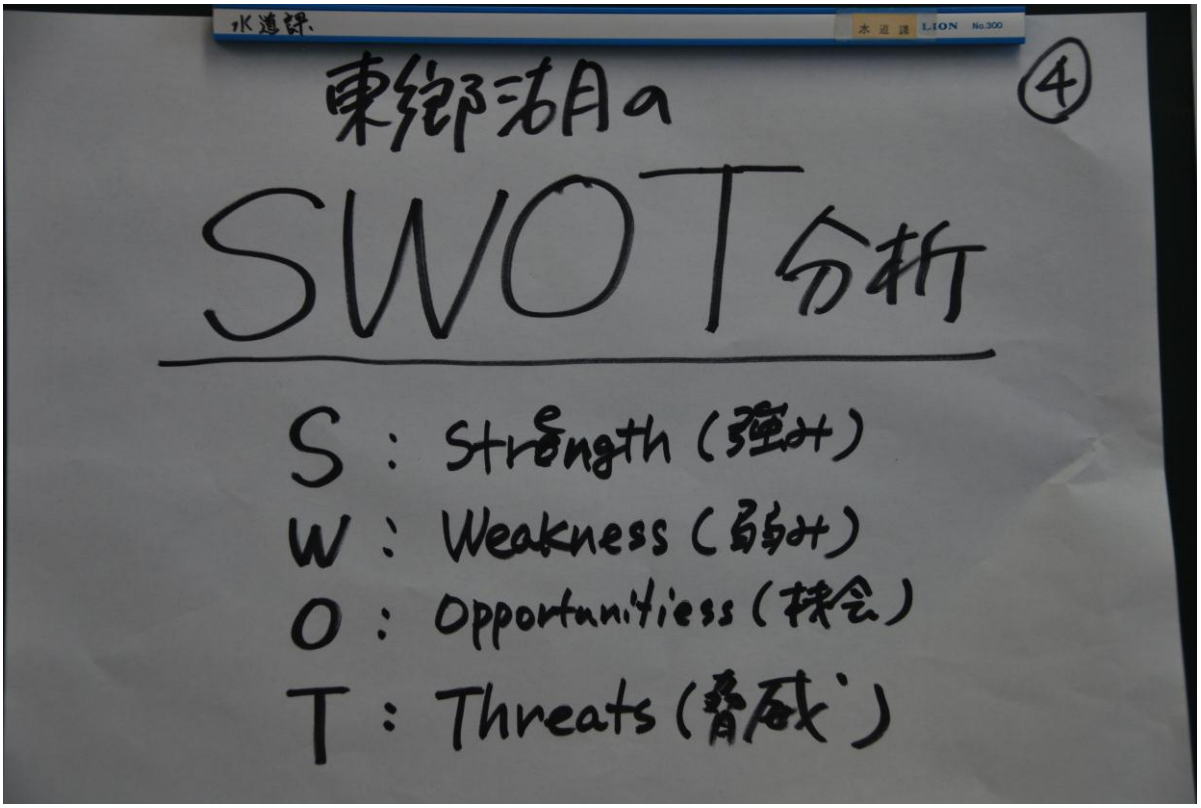


　そのやり方は、ちょっと皆さん後ろを見ていただいたり、前の黒板を見ていただいたり、実は昨日、職員の皆さんに先に参加していただいたんですが、色紙がありますね。これは、ポストイットというんですけれども、市販されているもので一番大きい紙なんです。あの大きさの紙に自分はこう思ったということを書くんです。びっしり書く人もいますけれども、できるだけ書いて発表するということを考えると自分が思ったこと、こうしたい、こうだということをあのポストイットの中に、そうですね、とにかく自分が言いたいこと、思ったことを紙に書く。言いっぱなしで終わるのではなくて、自分の言いたいことを表現する。表現をして、議論する時に皆がその札を出し合う。それで、それを説明していく。そういう形でお互いに対話をしていくと、何か共通のものが出てくるんですよね。そういう共通性、お互いに共鳴するものはいったい何なんだろうということをまとめあげていく、マージしていくというんですけれども、要するに考え方を少しずつ整理していくと。書いたものをまた貼っていくと。こういうことをして、議論をする５名、６名、７名でこういうことだよね、というものをつくりあげることを繰り返すんですね。繰り返すことによって、自分たちの考え方をつくっていくというやり方なんですね。正に、工房的なやり方ということになります。書類を見て前例はこうだとか、どこかのケースタディを持ってきて、あれが成功したらしいからこれをやればいいんじゃないかというやり方ではなくて、とにかく思いなどを表現し合い、説明し合う中でやる。その時に、言うだけではなくて書く、書いて説明して、お互いに共通軸みたいなものを発見していく、こういうやり方なんです。説明は非常に簡単ですけれども、今までやったことのある人以外は入り方が難しいかもしれませんが、それは追々と今後もや

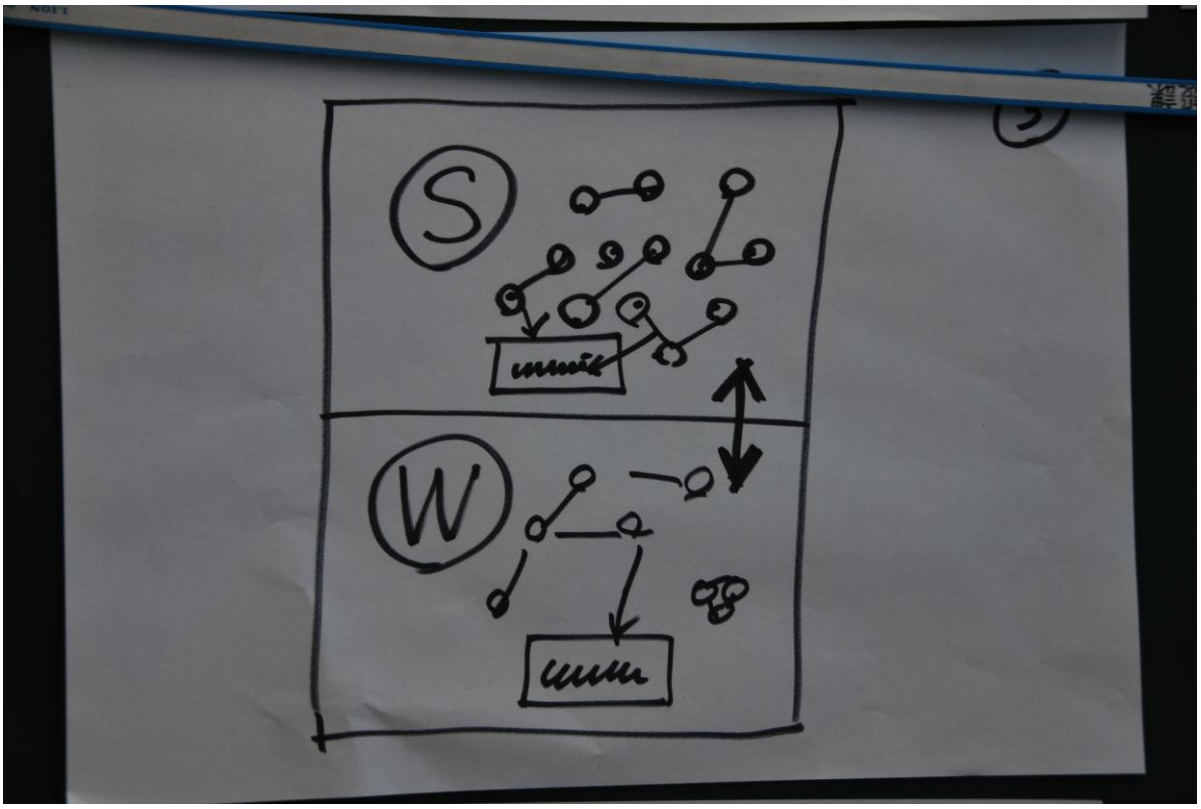
っていく。先程、林さんが３回やりますと言いましたが、今日はスタートです。１０月末に２回目の中間総括、１２月に最後の取りまとめということですが、全部このワークショップ方式でやります。その間に、分科会ごとに集まって食事会やりながらちょっと話そうよという時も、できるだけポストイットを持ってやってみてください。そういう感覚で取り組んでいただければと思います。

福井総合ファシリテーターによるワークショップの説明／会議の様子

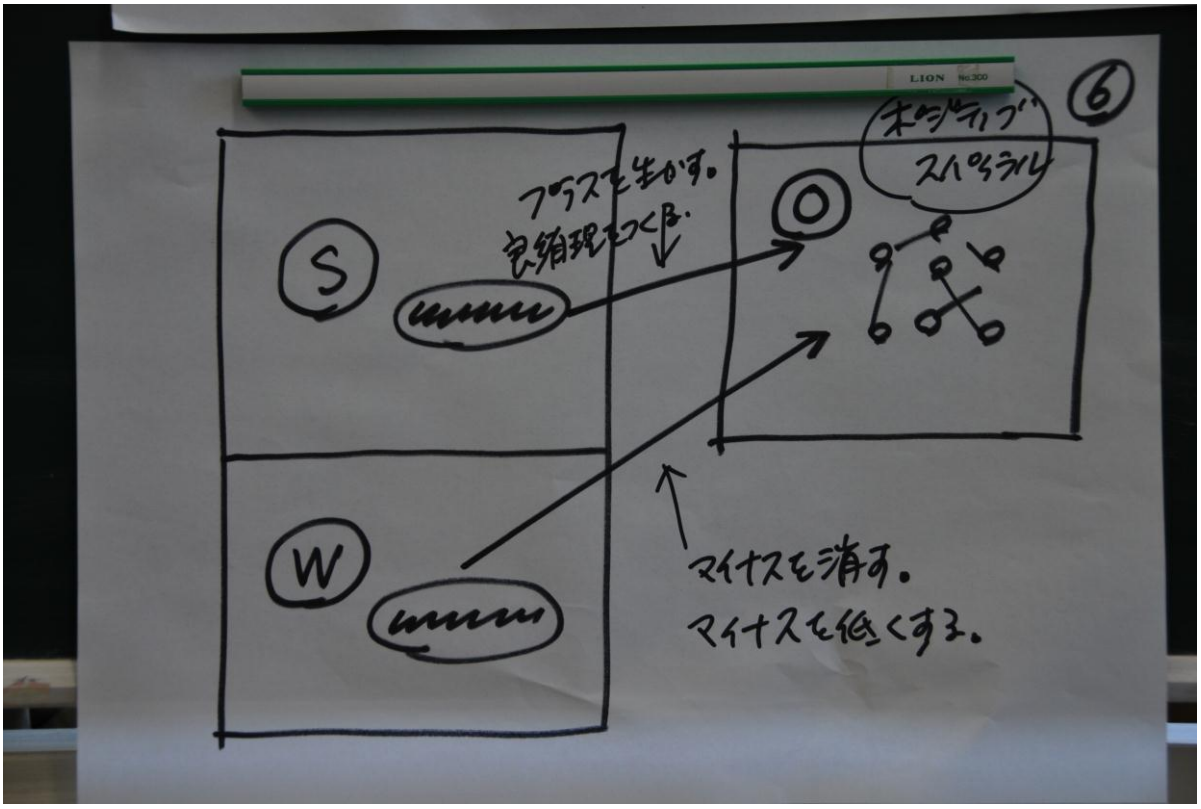
そこで、まず昨日、町長の夢を聞いていただいて、それをベースに東郷湖の「Ｓ」／Strength＝強み、「W」／Weakness＝弱み、そして、この強みをより強くするための要因というか、施策、これをポジティブ・スパイラルというんですけれども、良循環ですね。その反対はネガティブ・スパイラル、悪循環ですね。悪循環というのもやらなければいけないんですが時間がないので、良循環をつくるためにはどうしたらいいか、それから、マイナスをできるだけゼロにして、よりプラスにできるような施策は何だろうということを話し合っていただきます。



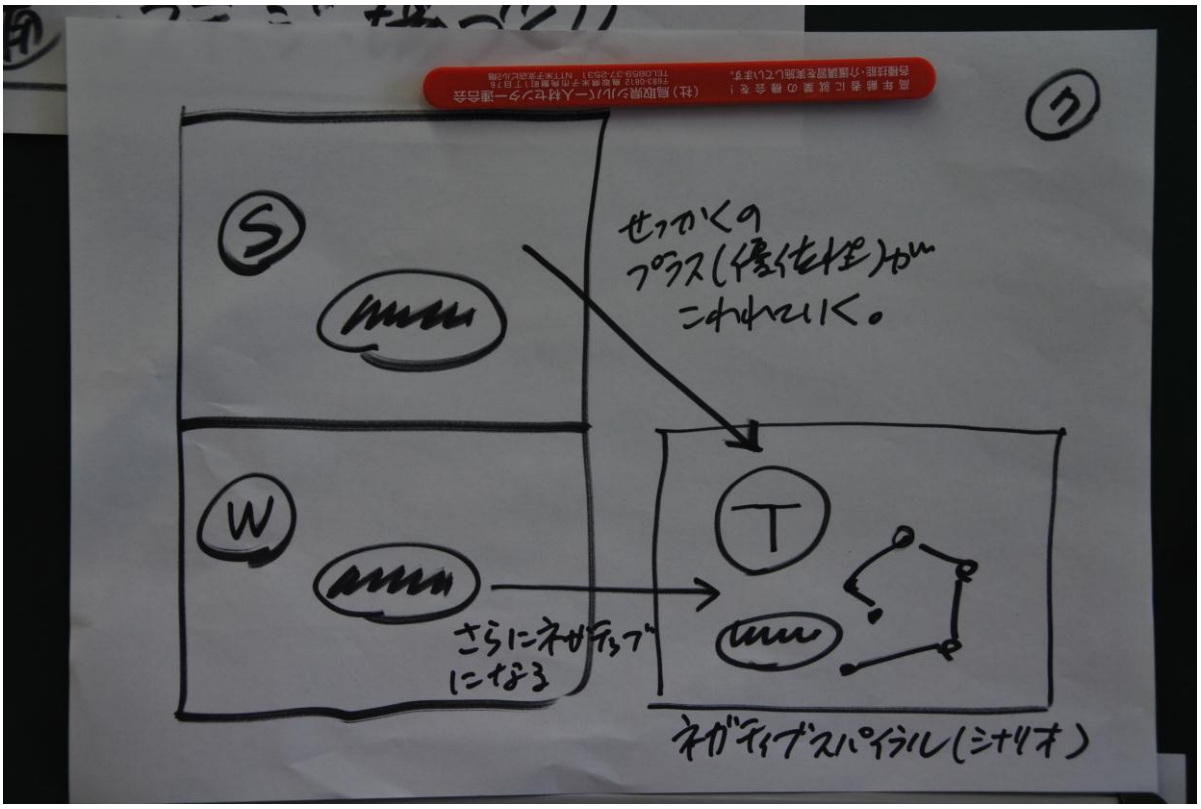
福井総合ファシリテーターがＳＷＯＴ分析を解説



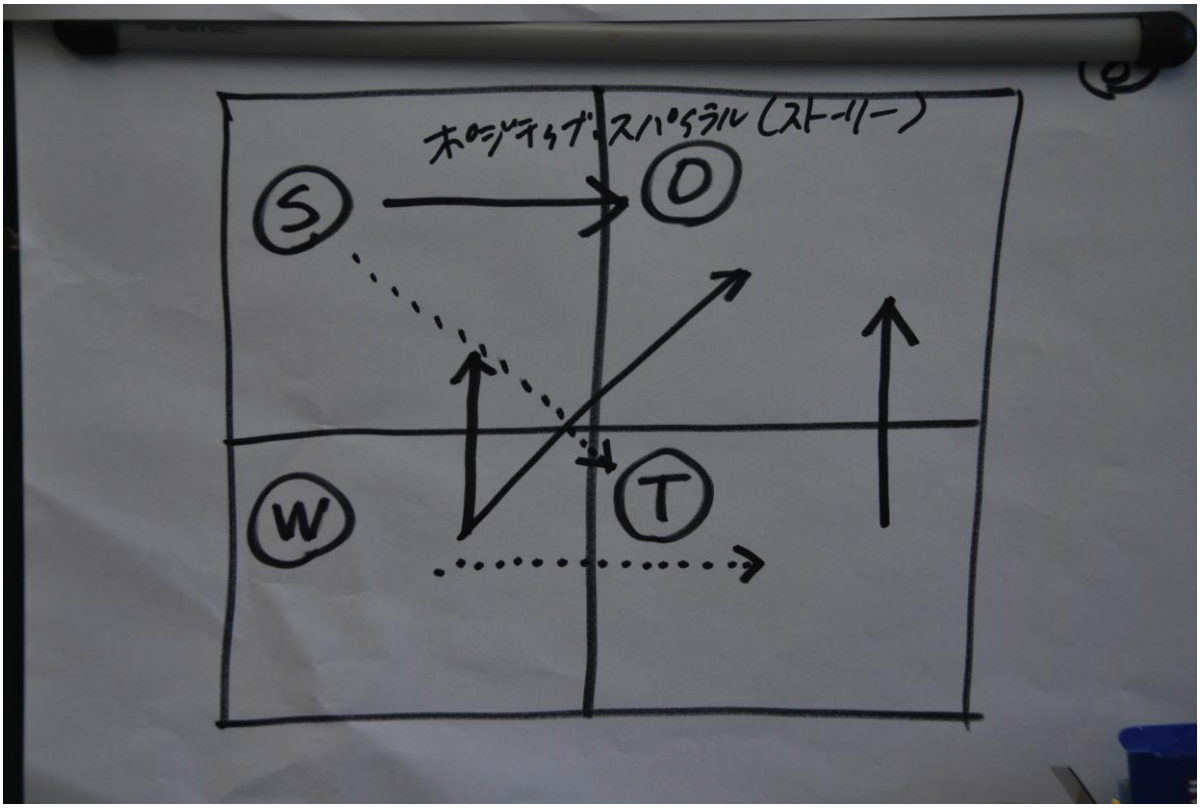
東郷湖の「強み」と「弱み」を分析



強みを活かし、弱みを克服するポジティブ・スパイラルを分析



ネガティブ・スパイラルを分析



ネガティブ・スパイラルを克服し、ポジティブ・スパイラルのシナリオ化を促進

これを皆さんにも後で検証していただくんですが、何といってもこのプロジェクトは、町長の夢から始まらないと何を始めるんだということが分かりませんので、町長に話をしていただいて、皆さんに町長の夢を聞いていただいて、そして昨日、事前のワークショップでどんな議論になっていたのかをお披露目をして、それから、皆さんにチームに分かれた形で議論していただこうというふうになります。よろしいでしょうか。それでは、よろしくお願いします。

（宮脇町長）

それでは、去年あたりから感じていたことで、こういう切り口もあるんじゃないかということでまとめてみたものを話したいと思います。皆さんご承知のとおり、東郷湖活性化プロジェクトで東郷湖の環境を中心に周辺地域の振興を図ろうということで、環境浄化に対する取り組みであるアダプトプログラム、覆砂、それから、周辺地域の農業の振興に関して、これは環境とも結びつくんですが、エコファーマーの取り組みですとか、或いは町の方で観光地へのアクセス道路の整備をしたり、駐車場の整備をしたりということで、東郷湖活性化プロジェクトを現在推進中でございます。その中で具体的な目標を定めてやっているんですが、東郷湖は湯梨浜町の宝であるという基本的な認識の下で進めております。町の中心部、泊は接していないということで若干そこは抵抗感があるかもしれませんが、それは一つのゾーンとして考えていくべきだと思っています。そのような状況の中で、実は色々な進展も見られます。一つは、ＮＰＯ未来などがやっておられるウオーキング大会、或いはノルディックウ

オーク大会の開催、これらを通じて、事業所、或いは個人のグループで、東郷湖周を歩くグループが増えてきた。それから、トライアスロンの影響もあってでしょうか。休みの日に自転車に乗って、競技用の帽子を被って走っている方もよく見かけるという状況があります。それから、商工会とＮＰＯが一緒になってＱＲコード付の案内看板を設けられて、観光案内と同時に、ウオーキングを助長する仕組みをつくられつつある。そういうような動きが一つあるということです。要するに、東郷湖の周りに人が集まりつつあるというチャンスの時期が今、きているんじゃないかと思います。それから、従来から住民の皆さんの方から東郷湖の周りに桜を植えたらどうか、藤津のあたり、桜小学校もあるし、一つのコンセプトで木を植えればすばらしい景色ができるというお話ですとか、羽衣石の天女のモニュメントでもめぐみのゆ公園に置く気があるのなら寄付するよというような町内出身者の声も聞いたりというような状況も生まれております。そのようなことを背景にして、東郷湖活性化プロジェクトはトータルな進行管理みたいなことはやっているんですが、一つの事項について、そこを全体の場で掘り下げてやるということは比較的ない機関でございます。そういう意味から、自分たちの考えを出し合って、それを具現化するために努力する、そういう作業をやってみようじゃないかということです。ゾーンの姿を描く時に、どこかのコンサル会社に全部頼んでやってしまうというのも方法としてはあるだろうと思います。それを福井先生に相談した時に、そうではなくてやっぱり住民の皆さんと一緒にと、そういう手法でやった方が将来のスタミナなり、実施していく上でもいいでしょうと。なるほど、先程境港市の紹介がございましたけれども、境港市が街路事業で道路を整備した時に、そこに鬼太郎に関するモニュメントを置くということは境港市が決めました。しかし、あそこまでいけたというのはやっぱり、その沿線にあるお店屋さんとか、住民の方たちが色々それぞれ役割分担をして、そのコンセプトに合ったものをつくってきたという長い時間と汗がある訳です。そういうものがないと結局、長続きしないということになります。福井先生はたいへんお忙しい方で、言わば日本を代表されるような方に、湯梨浜町出身ということで甘えてしまって、ファシリテーター、指導者の役割を果たしていたくことになったということでございます。よろしくお願いします。

　そういうことを考えて、その手法として一つは「天女によるまちづくり」みたいなものも考え得るのではないか。羽衣石の天女を活用して、湯梨浜の特長を出していって整備したらどうかと考えてみた訳でございます。先程申しましたように、東郷湖周の整備を図るということが最低限の基本で、後はそれをどこかとつながりをもってやっていくというふうに考えたいと思っております。東郷湖周の整備をするのに、ある程度位置付けみたいなものも必要ですから、実は平成２３年度から５年間の第２次湯梨浜町総合計画の中には、東郷湖周の整備という一文を加えました。今年の予算の中には、最低限のこれから進めていく議論のための経費も計上いたしております。その上で、１月にありました県知事との「伸びのびトーク」の中で、私どものこのような考えをお示しして、「東郷湖の周りは４本の県道です。全部県道なんです。１周１２㎞で、これからここを活用していくことが湯梨浜の生命線にもなります。きちんと人が安心して歩いたり、自転車に乗って回ったりする道を整備していただけ

ば、それ以上の付加価値の創出は町が一生懸命やります。ご協力願えませんか。」と話しましたら、知事は「それはとてもいいことだ。応援するよ。」と言っていただいています。そのようなこともあって、今日、中部総合事務所の職員の方もこのワーキンググループの中に参加していただいている訳でございます。それから４月に、福井昌平さんを囲む「ワイワイトーク」というのをやりました。その時に、この中の一部の方にも参加していただいています。今日お話しするのは、その時のレジュメを基にスライド化をしておりまして、以下駆け足でしゃべりたいと思います。

東郷湖・未来創造会議　～町長の夢～　発表

【要旨】（別添プレゼン資料参照）

◆キャッチフレーズ：天女によるまちづくり

◆キャッチコピー

◇「天女の住むまち　湯梨浜町」

◇「天女に会えるまち　ゆりはま」

◇「天女と７福神人に会えるまち　湯梨浜」

◇「天女と大王の住むまち　湯梨浜町」

◆活用すべき素材

◇羽衣石の天女伝説・・・・羽衣石、羽衣の池、水乞い行事

◇６つの足湯・・・・・・・はわい温泉、東郷温泉

◇東郷荘絵図
◇燕趙園・・・・・・・・・・国内最大級の中国庭園、７福神
◇伯耆一ノ宮・・・・・・・銅経筒（国宝）、下照姫命（安産の神様）
◇九品山・・・・・・・・・・中将姫（敬虔な姫）
◇長瀬高浜遺跡・・・・・・埴輪（国の重要文化財）
◇尾崎氏庭園・・・・・・・国の名勝
◇さくら工芸品工房・・・・陶芸、染織、サンドブラスト、梅花書道
◇東郷湖周周回コース・・・美しい日本の歩きたくなるみち５００選
◇３つの全国百選・・・・・①石脇快水浴場（快水浴場百選（環境省））
②宇野地蔵ダキ（平成の名水百選（環境省））
③別所・国信地区（里山百選（朝日新聞））
◇３つの全国大会・・・・・①グラウンド・ゴルフ発祥地大会
②ハワイアンフェスティバルハワイｉｎゆりはま
③ベテラン卓球東郷大会
◇世界マンガサミット・・・平成２４年１１月開催
◇中華コスプレ・・・・・・歴史上の人物、アニメ

◆具体的な取り組み

◇東郷湖周遊（周回）コースの整備
◇土産品の開発
◇全国天女サミットの開催
◇ゆるキャラの製作
◇天女コスプレの開催

このようなことを思っているんですが、要するに湯梨浜の素材を活かして、東郷湖の魅力を高めたいとの思いでございます。そのために、新たにどういう内容のものがあるかということを皆さん方と一緒に考えて、それを一つひとつ実行に移していきたい。県の方も積極的な支援をするということを総合事務所長さんあたりにはおっしゃっていただいております。プランナーであると同時に、自らが実行者になっていただくことを願うものでございます。よろしくお願いします。

（福井総合ファシリテーター）

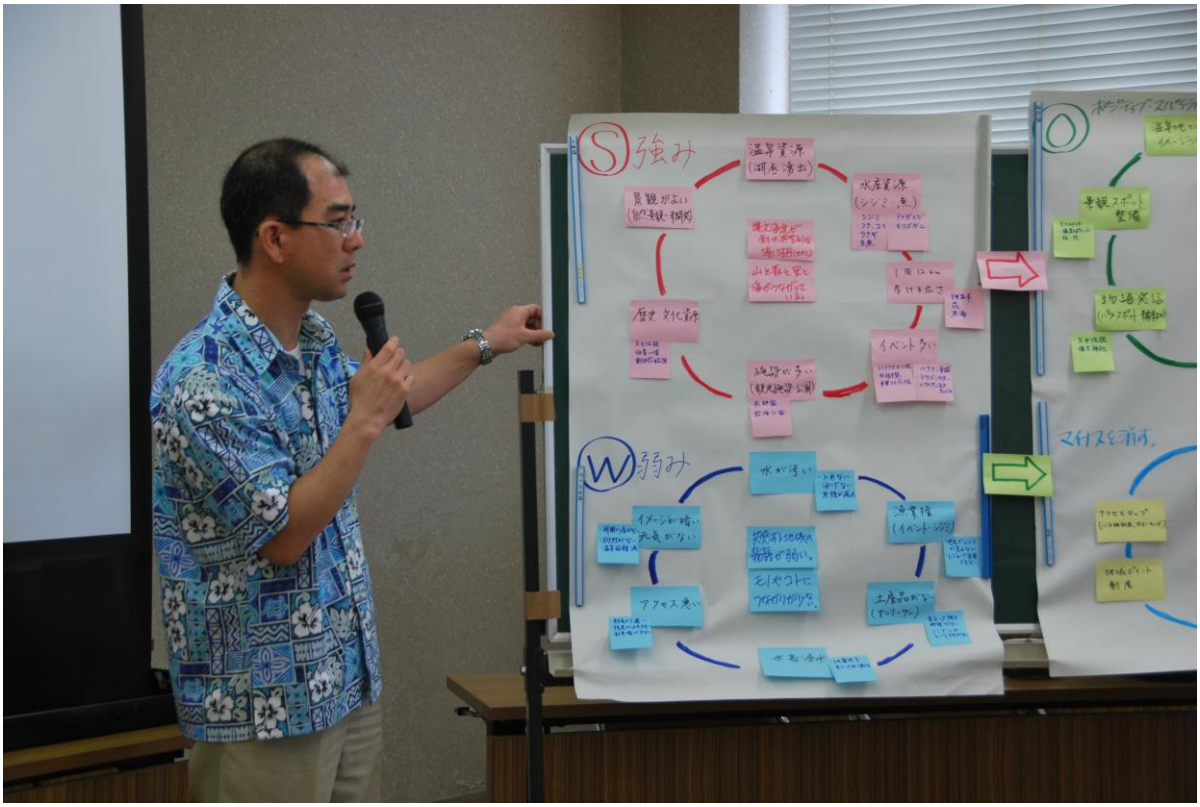
どうもありがとうございました。町長のプレゼンに拍手を。（拍手）

行政のトップが夢を語るというのはいいことだと思いますけどね。ただ、色々な理由があって、なかなか町長といえども夢が実現できないというのが、全国千数百かの自治体の実態なんですね。なぜそういうことが起きるかというと、自分たちの地域が持っているモノ、コト、人、資源、こういうものに対するかなり冷静な分析をあまり普段やっていないという問題があるんですね。そこで昨日、職員の皆さんに「ＳＷＯＴ分析」というものをやっていただきました。「東郷湖のＳＷＯＴ分析」、先程ちょっと言いましたけれども、「S」／Strength

＝強み、「W」／Weakness＝弱み、「O」／Opportunities＝一般的には機会、つまりプラスにする要因、「T」／Threats＝脅威、マイナスにしてしまう要因、何かをやろうというとそんなものできないよという職員が３分の２いるとかですね。これはもう入れ替えるしかない。ですから、そういうことを含めて、この「ＳＷＯＴ分析」をやってみようじゃないかということで、時間の許す限り先行的に職員に挑戦していただきました。４チームに分かれてやって、時間があれば本当は丁寧にやるべきだったんですが、時間がなかったので、終わった後に事務局に残ってもらって、昨日の議論は何だったのかということを少し整理してまとめてもらいましたので、これから先は林さんにどんな議論があったのか、ここは強み、ここは弱み、そして、この後この強みをさらに強くする施策、それから、弱みをなくしていくような施策、どういうことが考えられるかということをトライしてもらいましたので、林さんが発表いたします。

（事務局：林）

先程、福井さんの方からお話をいただきましたけれども、我々はどうも東郷湖のことを身近にあるが故に、なかなか気付かないところもあったりとか、逆にいい意味でいいアイデアが出たりだとか、というようことが昨日改めて分かったような気がします。冒頭お話されましたけれども、後ろに貼っておりますのは、それぞれ一つひとつの工程を皆さんでやった結果でございます。そのことを踏まえながら昨日の結果を整理していたんですが、では東郷湖の強みは何だろうということを集約してみました。



ワークショップ研修会の意見集約

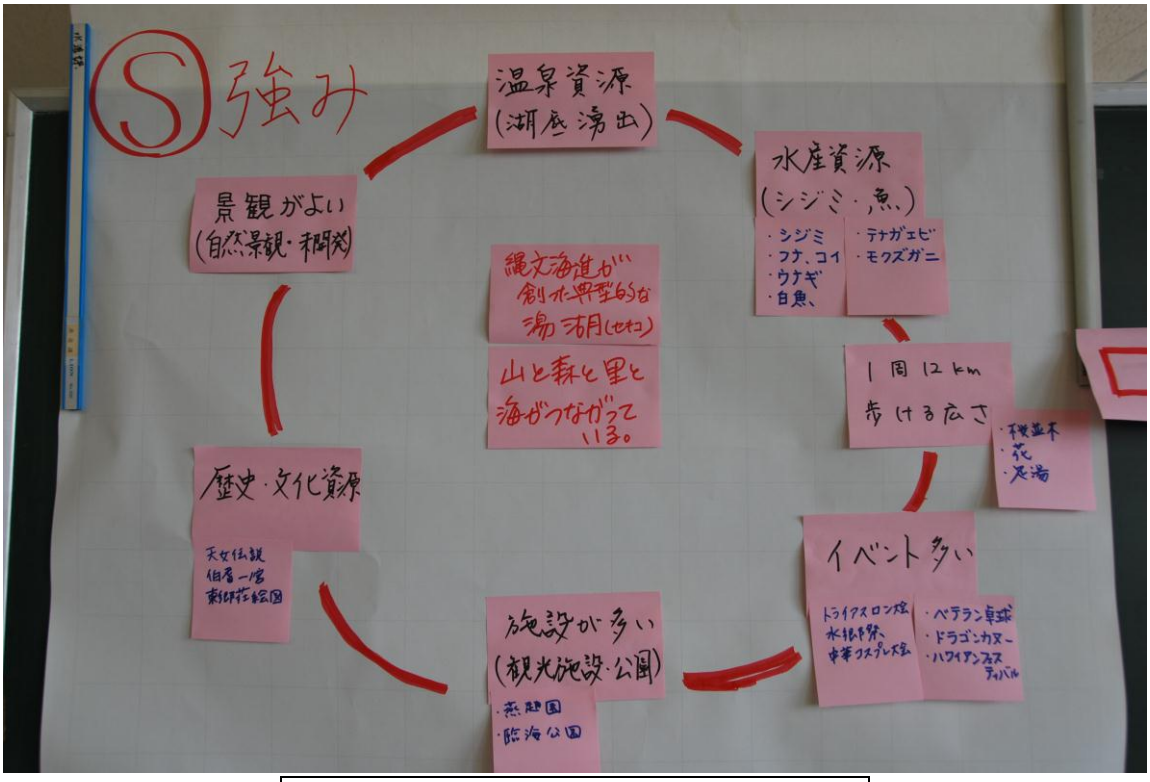
＜東郷湖の強み＞

一つは、温泉資源があるということです。はわい温泉、東郷温泉は、特に湖底から湯が湧いているということで、非常に珍しい、全国に誇れるんじゃないかというお話がありました。それから、非常に多かったのが景観がよいということでした。自然景観もそうなんですけれども、未開発、あまり手がつけられていないといいますか、昔ながらの景色、景観が残っているというお話がありました。また、歴史・文化資源が多くあるということ。町長が先程おっしゃっておりました天女伝説のこともありますし、その他の古くから伝わる言い伝えもございます。それから、伯耆一ノ宮であったり、東郷荘絵図、関連する松尾神社があるというような歴史資源も豊富だということがありました。それから、周辺に施設が多いということ、観光施設、県の方にお世話になって、東郷湖羽合臨海公園がきれいに整備されているということがありました。その他の要素として、イベントが多いということで、トライアスロン大会で活用されたり、水郷祭や中華コスプレ大会、卓球大会など、色々なイベントが東郷湖だけではないですけれども、町内で多く展開されているということ。それから、１周１２km、ウオーキングをやられている方など捉え方は様々だと思いますけれども、歩ける広さとして適しているんではないか、桜並木があったり、花があったり、足湯があったりということで、歩くのに色々な環境整備もなされているのではないかという話がありました。それから、水産資源ということで、特に特大のシジミが獲れる、宍道湖のシジミと比較しても大きくて、非常に誇れるということがありました。その他、魚釣りができるということで、フナだとか、コイだとか、ウナギだとか、そういうものが東郷湖の中で獲れることも魅力であるということもありました。以上が、皆さんで議論していただいた結果として、東郷湖の強みということで表現していただいたのかなと思っております。

（福井総合ファシリテーター）

これで林さんの報告で終わると私がファシリテーターをしている意味がなくなるので、少しファシリテーターとして付け加えさせてもらおうかと思ったんですね。つまり、今、説明された東郷湖の強みというのは、一体それぞれの事柄というのは何か本質的なもののつながりがあるんじゃないかというふうに考えていくと、二つのポイントが私はあるように思います。湯梨浜町というか、羽合町の出身なものですから、昔からふるさとのことを研究しておりまして、一つは、縄文時代に地球温暖化が猛烈に起きまして、今から数ｍ海水面が高かったんですね。その跡が、橋津の馬ノ山のところに、フジツボの跡が残っていますよね。そのぐらい海が、水位が高かった。超温暖化時代があったんですね。これを縄文海進（じょうもんかいしん）と言います。おそらく、羽合平野は海の底だったと思いますけれども、その時にできた典型的な潟湖（せきこ）、要するに汽水湖ですよね。東郷湖というのは、地政学的にいうとそういうものなんです。つまり、縄文海進によってつくられたものなんですね。ですから、それ以降、東郷荘絵図を見ても分かるように、乱開発、東京の近郊だとか、そういうところだったら全部なくなってしまうはずなんですが、別荘が建てられたとか、住宅が建てられたとか、なくなってしまうんですが、乱開発から免れているから景観がよい。ちょうど望湖楼の方から東郷の方の山を見ますと、確かにテレビ塔みたいなものはありますけれど

も、そこのところはちょっと目をつぶれば、右側の方はほとんど、おそらく縄文期と変わらないような、そういう山並み、そういう景観、風景がある。それから、もう一つ重要なのは、私も来年、国際博覧会の総合プロデューサーをやって、色々展示を考えているんですが、日本が世界に誇れるものというのは、実は山と森と里と海がつながっている国だということなんですね。これを「森里海の連環」と言います。森と里と海がつながっている、それも川でつながっている。日本列島というのは、山脈が連なっていて、名前のある川だけでも２万あるんですよ。それが、網の目のごとく日本の国土を結んでいると、こういう構造でありまして、森と里と海がつながっている。山と森と里と海がつながっている。そういう場所なんです。鳥取県には、その他、例えば湖山池もかつてそうですけど、今はもう直接海とつながっていません。それから、淀江も実は潟湖があったんですが、大山が噴火をして、大火砕流が淀江の潟湖を埋めてしまったと言われていますけれども、そういう意味で、鳥取県の中でこの山と森と里と海が本当につながっているというリアリティを持っている場所はここだけなんですね。そういうことを色々考えていくと、今、この歴史・文化資源、何故天女伝説があるのか、伯耆一ノ宮がここにあるのか、非常に豊かであるとか、そういうことだと思うんですけれども、そういうものをまとめていく意味で、やはりここが日本の典型的な風土、風景を持っているところ、それから、だからこそ湖底から温泉が出てくるというのは、地形がつくり上げた特長なんですね。そういうものをしっかり学ぶ必要があるんじゃないか。そういうものをもう少ししっかりと訴えていく必要があるんじゃないか。それをこの地域の発展の方向にもっていく必要があるんじゃないかということで、ちょっとファシリテーターが付け加えさせていただきました。



東郷湖の強み／ワークショップ研修会まとめ

それでは、東郷湖の弱みいきましょう。

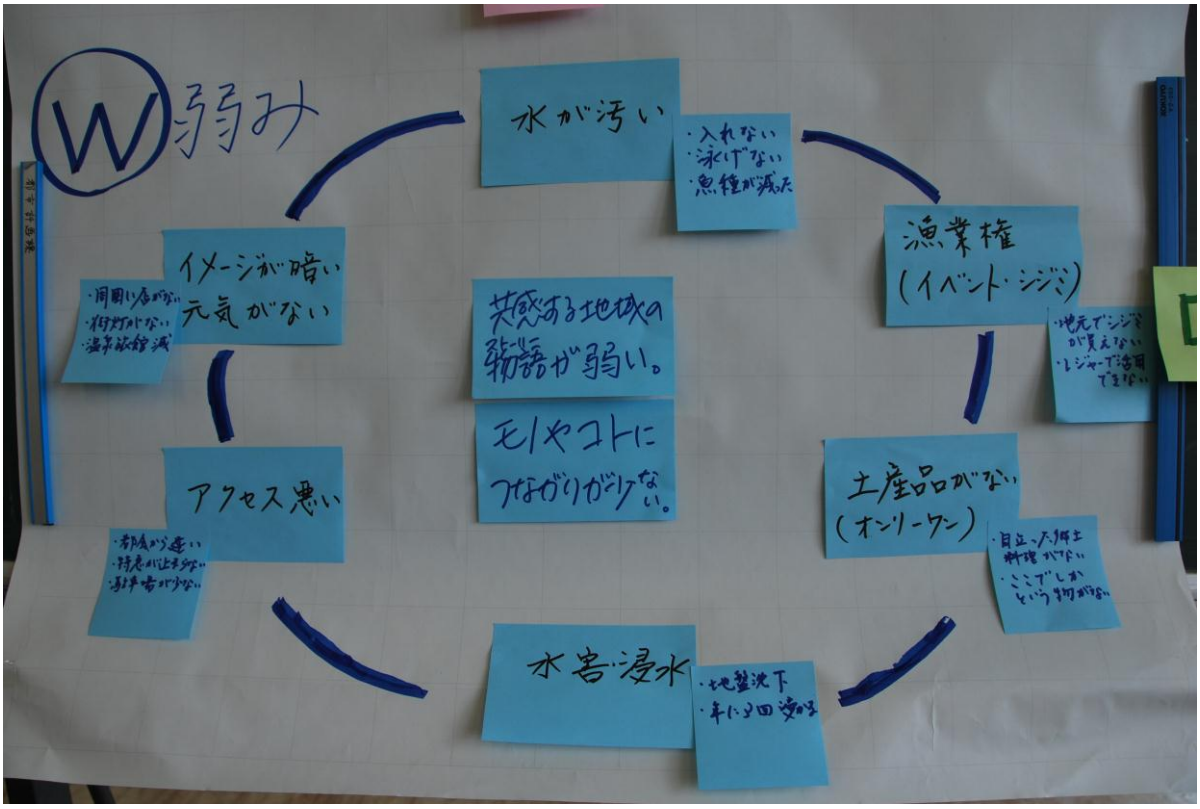
（事務局：林）

＜東郷湖の弱み＞

先程と相反するといいますか、東郷湖の弱みの部分でございます。一番多かったのが、水が汚いということでした。その中には、湖に入れないとか、泳げないとか、魚の種類が減ったというような関連する話がありました。それから、あくまでもイメージなんですけども、イメージが暗い、周辺に元気がないという話がありました。その要因として、周囲にお店がなかったりとか、街灯がなかったりとか、温泉旅館が少しずつ減ってきたという背景からそのような意見があったものと思います。それから、この中部地区、アクセスが非常に悪いということで、都会から遠いのでなかなか来にくいとか、特急が止まらないとか、あるようで周辺に駐車場が少ないのではないかという話もあったように思います。それから、水害であるとか、浸水があるということで、藤津（あやめ池）あたりで地盤沈下があって、今、その修繕をお願いしているということもありますし、松崎地区では年に３回は浸かるという話もありました。また、土産品がない、先程からオンリーワンという表現がありますけれども、要は目立ったもの、ここに来たという証になるような土産がない、ここでしか買えないものがないという意見があったように思います。それから、漁業権の問題、イベント、シジミと書いていますけれども、せっかくいいものが獲れたとしても地元でなかなか手に入らない、問い合わせがあった時にもなかなかどこで買えるということが伝えられない、いい反面、悪い部分もあるんじゃないかということ。それから、レジャーで活用できないということ。ドラゴンカヌーやトライアスロンなど色々ありますけれども、その中にも漁業権という制約があるんじゃないかということで、これらのことが東郷湖の弱みの部分になるのではないかと思います。

（福井総合ファシリテーター）

ありがとうございました。今、弱みのところを説明していただいているんですが、私も昨日のワークショップで「ＳＷＯＴ分析」を聞きながら思ったことは、いいものはたくさんあるんだけれども、共感する地域の物語が弱いんじゃないか。今日、町長が天女伝説みたいなものを、良さをつなげていく、何かそういうものに使えないのかなというようなことをお示しになったかと思うんですが、イベントが多くても何か三代前の町長が始めたもの、前の町長が始めたもので整理できないで残っていますみたいなね。そういうものがあるかもしれない。要するに脈絡というんですけどね。我々のふるさとがこうで、こういう意味があるからこうしているということをあんまり説明できない。何となくある、そういうものですね。先程言った、縄文海進がつくった典型的な潟湖なんだ、他にはなかなかないぞと、ここにしか残っていないということになれば別ですが、そういうストーリーが弱い。それから、モノやコトがあまりつながっていない。要するに、コスプレと〇〇とはどういう関係なんですという、物事がつながっていない。そういうことが起きているんじゃないかというふうに思いますね。だから、熱心に、イベントが多いけれども、イベントそのものもなかなかつながっていないということがあるので、それが弱みになっているんじゃないかと思います。



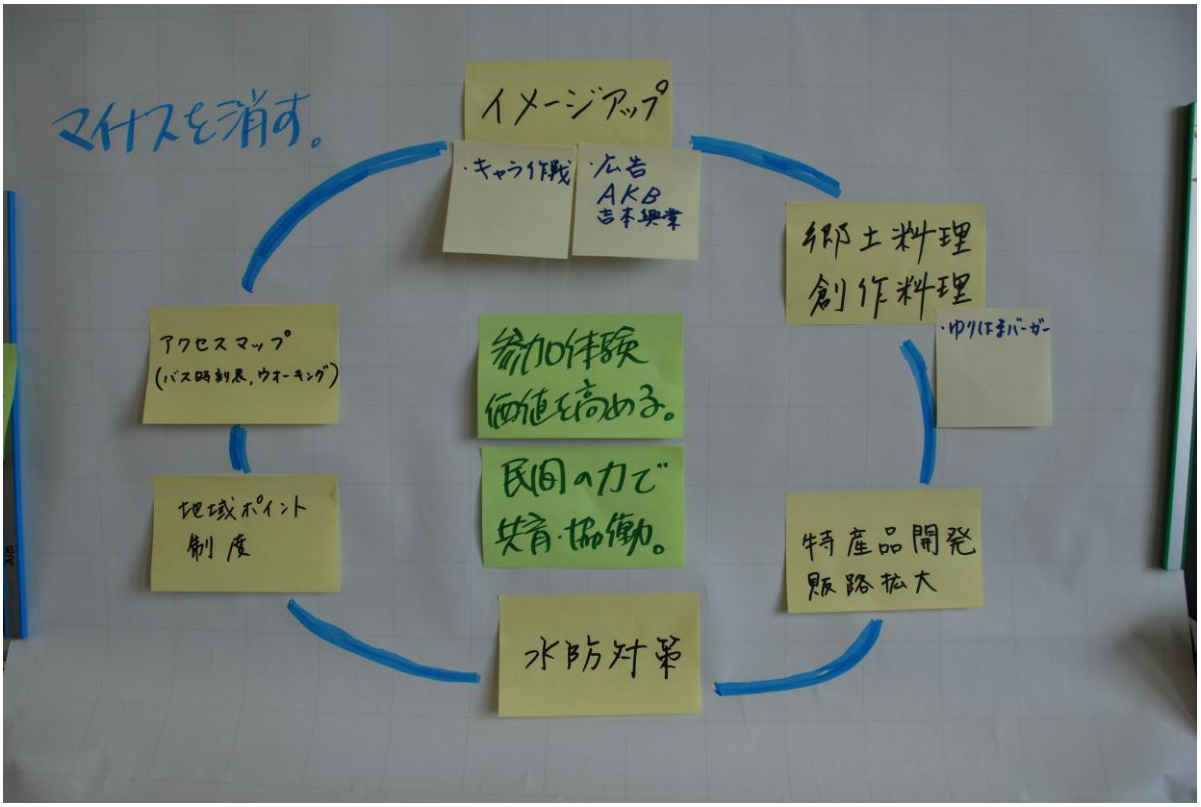
東郷湖の弱み／ワークショップ研修会まとめ

今、強み、弱みというのをこういうふうに一応整理しています。これは、皆さんが全員入っている訳ではないので、これからここのところをもう一回検証していただきます。では、この強みをさらにプラスにしていくような仕組みというのはできるんだろうか、どんな方法なんだろうかということについて、その前に弱みの方がいいか。この弱みをできるだけマイナスからプラスの方向へ、少なくともプラスマイナスゼロの方向にもっていくためにはどういう手立てがあるのかということについても議論していますので、これを説明してください。（事務局：林）

＜東郷湖の弱みを消す＞

先程、イメージが暗いという話がありました。一つは、イメージアップを図る必要があるだろうと思います。その手法として、町長の方がゆるキャラという話をされましたけれども、町の特徴を活かしたようなキャラクターを数多くつくったらどうだという意見がありましたし、広告と書いておりますけれども、芸能人の方に一役かっていただいて、東郷湖の宣伝をしたらどうかという話もありました。また、アダプトプログラムなどの環境活動、そういったものが少しずつ定着してきているということもありまして、環境活動の中でイメージアップを図っていったらどうかという話もありました。それから、いいものはあるんだけども、郷土料理のようなものがなかなか表に出てこないんじゃないかという話がありました。また、ゆりはまバーガーとか、地域の特色ある新たな創作料理をつくってみたらどうだという話も

あったと思います。それに関連してですけれども、特産品の開発ですとか、それに合わせて販路拡大も考えていったらどうだろうかという話もありました。それから、アクセスが悪いということがありましたので、そのアクセスを改善するために、アクセスマップ、例えばバスの時刻表を充実したり、ウオーキングに関するマップをつくったらどうかということ、もう一つは、例えば地域ポイント制度みたいなことで、何回かその施設に行けば一回は無料になるというような、地域通貨とか、そういう地域ならではのポイント制度をつくったらどうかという話もありました。水防対策については、色々と検討されていますけれども、こういうことをトータルで考えて、弱みを少しずつでも解消していってはどうだろうかというものでございます。

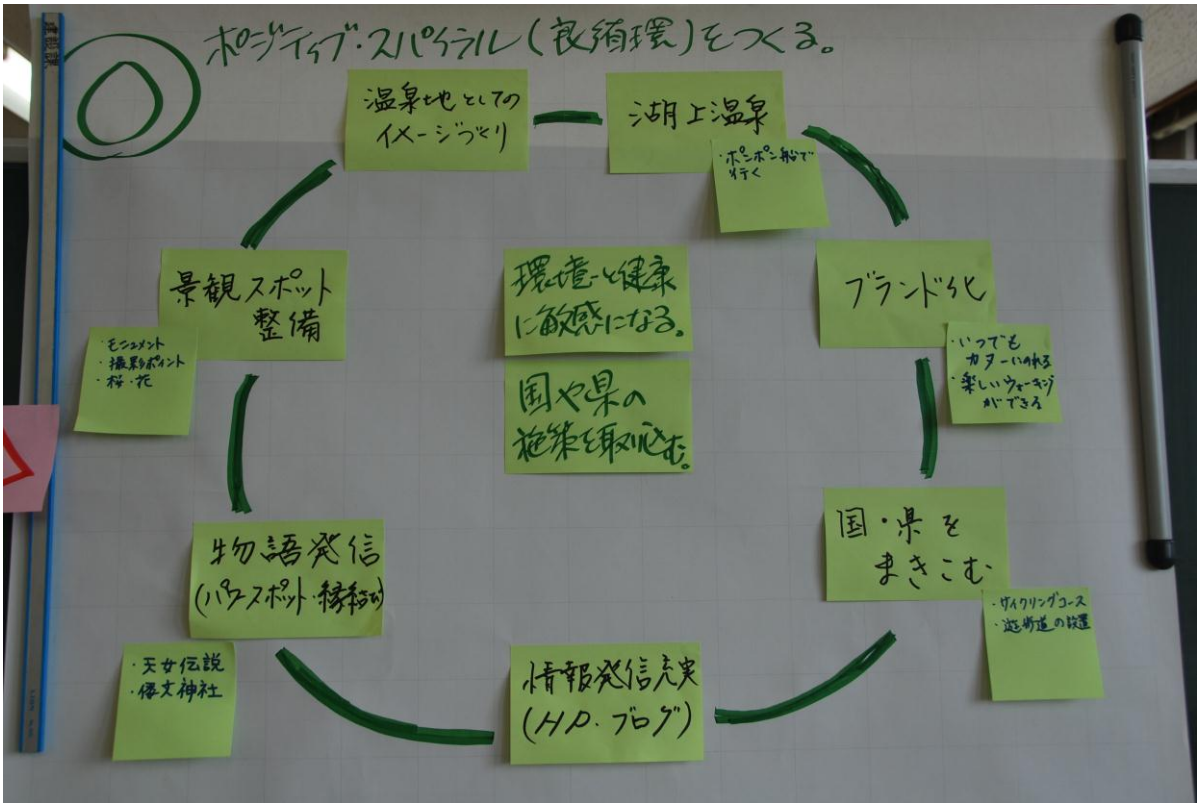


東郷湖の弱みを消す／ワークショップ研修会まとめ

＜東郷湖の強みをさらに強くする＞

続きまして、強みをより強くしていくためにはどうしたらいいかということで、まず、はわい温泉、東郷温泉は、町にとっても非常に大きな観光資源であるということがあります。そのためにも、温泉地としてのイメージづくり、はわい温泉ならこういうイメージ、東郷温泉ならこういうイメージというイメージづくりをしたらどうかということ。それから、湖上温泉であるということで、例えば源泉のあるところに入れる温泉をつくって、ポンポン船で行けるような環境整備をしたらどうかという話がありました。景観スポットの整備ということで、朝日、夕日、夜景がきれいだということがありましたので、撮影ポイントを今一度整

理をしたらどうかということがありましたし、基点となるようなところにモニュメントなどを設置したらどうかということもありました。それから、物語発信ということを書いておりますが、例えば天女伝説であるとか、倭文神社の関係もあると思います。そういう古くから残る文化、伝説、言い伝えがあるので、パワースポットや縁結びというキーワードで物語をつくって、それらを発信したらどうかという話がありましたし、全体的に観光施策の中では、情報発信の充実、その中でも、ホームページ、ブログなどを活用していく必要があるということがありました。それから、国、県をまきこむということがありましたが、例えばサイクリングコースをつくったりとか、遊歩道を設置したりとか、町だけではなかなかできないこともありますので、国、県、色々な制度を活用しながら、よい方向に向けていったらどうかという話がありました。ブランド化という意味でも、東郷湖でいつでもカヌーに乗れる、楽しいウオーキングができるという前向きなことでのブランド化をしていってはどうかという話があったように思います。



東郷湖の強みをさらに強くする／ワークショップ研修会まとめ

（福井総合ファシリテーター）

どうもありがとうございました。マイナスを消すという意味では、これはすぐに始めなければいけないというか、町がマイナスをすぐ消せれるような体制をつくるべきだと思うんですが、そのためには、やっぱり民間の力で取り組むというものはどんどん取り組んで、むしろそれは、町や行政が応援するという、何か制度をつくってやる前にまず民間の力で、共育・

協働というんですね。共に育てて、一緒に汗をかくみたいなね。そういうことを奨励するというか、町は応援すると、民間がどんどん取り組むことに関して応援する。それからもう一つは、参加体験価値、これはマイナス要因等々含めてでてきているんですけれども、行っても何することもない。東郷湖のところに行っても、もちろんボーっとベンチに座っていればいいという人もいるかもしれませんけども、何かやろうと思ってもできない。カヌーの大会があるけども、じゃあカヌーに乗れるかというとカヌーに乗れる訳ではない。ドラゴンカヌーに乗れるかというと乗れる訳ではない。ポンポン船があるかというともうやめましたとかね。そういうことで、要するに何か体験をするということが非常に少ない。わざわざ都会から来た人が、温泉だけ入ってハイ、サヨナラという人はもうほとんどいないんですよね。だから、体験できるところは境港しかないから境港に行こうかとかね。そういう形に移って、ここは温泉に入るだけということになってしまうんですね。だから、参加体験価値を高めるような施策をする。それは、既存の施設の中でもそういうものができる。こういうことに取り組んだらどうかとかね。

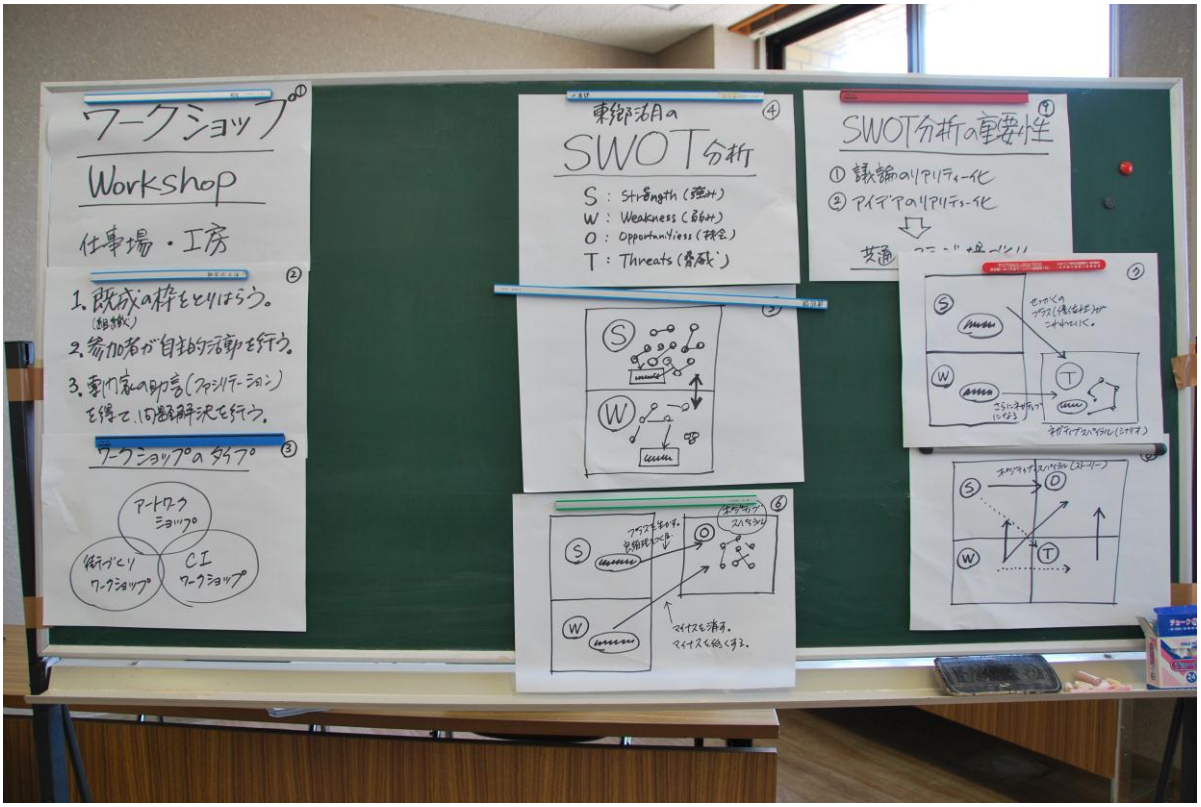
それよりも、やはり良循環をつくる仕組みづくりが必要なんじゃないかということで、これは先程、国や県をまきこむ、つまり、町の財政や町がやれる範囲というのはなかなか難しいんですね。東郷湖というのは、先程言いましたように、縄文海進がつくった典型的な潟湖ですから、ここは県立公園なんですね。県立公園になっているから、橋津川から海の方も県立公園になっていますよね。だから、国の方は山と海と森と里がつながっていることを認定して県立公園にしている訳ですよ。ですから、県や国をまきこむ、県や国の施策を積極的に

取り組んで、県立公園整備として湯梨浜町の発展のために、こうしてください、ああしてくださいということをどんどん要求をつくっていく。町民の８５％が賛成していますよみたいなね。そういう国や県の施策を取り込む。もう一つは、この場所の時代の持っている価値、つまり、環境とか、健康とか、そういうものの場所である。こういうすばらしい景観がある、温泉がある、そういうものは、これから日本が突き進む中で一番大事にされる環境とか、健康とかというもののシンボリックな場所であるということを、むしろ積極的につくり上げていくということが必要なんじゃないかと思うんですね。ですから、そういうことを含めて、とにかく昨日色々議論していただいたものについて、不肖ファシリテーター福井がちょっと付け加えさせていただいたものでありまして、あまり自分たちのふるさとだけに閉じこもらないで、もう少し広く見るとか、あそこは県立公園だから手が付けられないということではなくて、どんどんそこは民主主義的にテーマをつくり、アイデアをつくってという構造にしていく。そして、時代が求めている価値、そういうものを積極的に取り組んでいくということが大事なんじゃないかなと思います。

そこで、時間がどんどん過ぎて、皆さんが聞いているだけだったら、単なる普通の講習会になってしまいますので、これから皆さんに社会資本整備チーム、観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム、イベント・コンテンツ開発チームに、何でそうなったのかというと、だいたい大きなくくりとしてそんな感じかなということなので、それしか考えてはいけませんということではないんですよ。今、皆さん、３つのチームに振り分けられていますよね。３つのチームに分かれていますので、まず最初の３０分ぐらいは自己紹介もしながら、昨日皆が議論したこの「ＳＷＯＴ分析」の強みとか、弱みとか、それから、良循環（ポジティブ・スパイラル）の仕組みについて、賛成とか、反対とか、ここが抜けているとか、「ＳＷＯＴ分析」の評価をしていただきたい。ゼロからやり直すという話ではないと思いますので、この視点が抜けている、最大私が抜けているなと思うのは、女性の視点がかなり抜けているなと。本当は、環境と健康と女性と言いたかったんですけども、そういうことを皆さんでもう一回話し合ってください。人数が多いので、１チームごとに２つのワーキングチームに分けて、このマッピングはそれぞれのチームに、すでにコピーをしていますので、それを見ながらもう一回最初の３０分は「ＳＷＯＴ分析」の皆さんの議論をやっていただきたい。それが終わりましたら、それを踏まえた上で、それぞれのチームがこれから取り組むべき活動というのはどんな活動が必要なのか、先程町長が説明された町長の夢、町長が考えている夢もあるんですよね。これをどういうふうに取り上げていくかということを含めて、自分たちはこんなことをこれから議論していったらいいんじゃないか、或いは活動目標とか、議論の対象とか、自分たちのプロジェクトをつくっていく上での議論をしていただきたい。冒頭申し上げましたようにワークショップですから、自分の考え方はポストイットに書いて、そして、見せ合いながら、話をしながら進めていくというやり方をやっていただきたい。若干、職員の人たちがちょっとファシリテーターをやっていただけると少しスムーズに物事が進むんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。私も町長も会場を回りますので、こんなことで今もめているんだけど、これはどうなんだとか色々ありますよね。昨日も少しあ

りましたね。東郷湖の白鳥は自慢できるという人と外来種だからダメだ、もともといた訳じゃないからという意見があったんですね。ちょっと言おうかと思ったんですが、実は白鳥というのは天女が動物になった姿なんですね。天女が鳥になると実は白鳥なんです。そう思って東郷湖に白鳥が来ているのかどうかは知りません。だけど、白鳥と天女は一緒なんだ、かぐや姫も一緒なんだ、中国の飛天も一緒なんだ、そういう文化的な歴史の流れの中で表れ方が違うんだというようなことで結び付けば、その対立はなくなるんじゃないかと思うんですけれども、そういうところは聞いていただければと思います。発表の時間を４時１０分に、ここで発表会を行います。

＜ワーキングチーム会場＞
社会資本整備チーム・・・第５会議室
観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム・・・第１・２会議室
イベント・コンテンツ開発チーム・・・第３会議室
※ワーキングチームごとに、チーム長、副チーム長を決めていただくよう依頼。

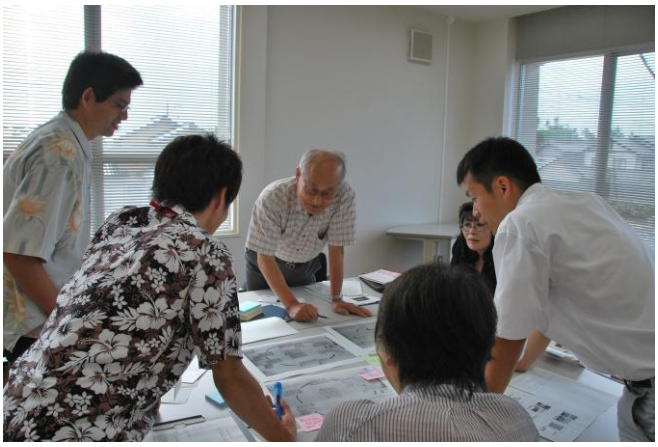


ワーキングチームごとに、前日行われた「東郷湖ＳＷＯＴ分析」の総合評価行う

※ワーキングチームごとに、２つのワークショップを組織化する。
※足りない視点、不可欠な視点などを踏まえて「東郷湖ＳＷＯＴ分析」の理解を深化させる。

社会資本整備チーム

観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム



イベント・コンテンツ開発チーム

（福井総合ファシリテーター）

ワークショップというのは、自分が考えた部分を書いて、それを見せ合って、そして、共通する文脈、違う文脈、そういうふうなものを整理し合って、その根拠といいますか、方向性というのをつくっていくというそういうやり方なんですね。声が大きい人とか、位の高い人が言ったことを追認するのではなくて、自分で考えるというやり方なんですね。それを発表する。発表することによって、逆にワガコトになる人もいれば、ちょっと違う深い考えに気付く人もいればですね、色々あると思うんですね。それを何回か繰り返ししていくうちに、かなり本質的なものに到達すると、こういうことなので、こういうやり方を今後も続けていっていただきたいと思います。

それで、今日の討論というのは、ワークショップで何か完璧な議論ができている訳ではないとは思いますが、まずきっかけとしてこういう機会を持ちましたので、今日のところの議論の集約をやってみようと思います。他はどんな議論をしていたのかも学んでみようということで、全体振り返りの会というのをつくりました。

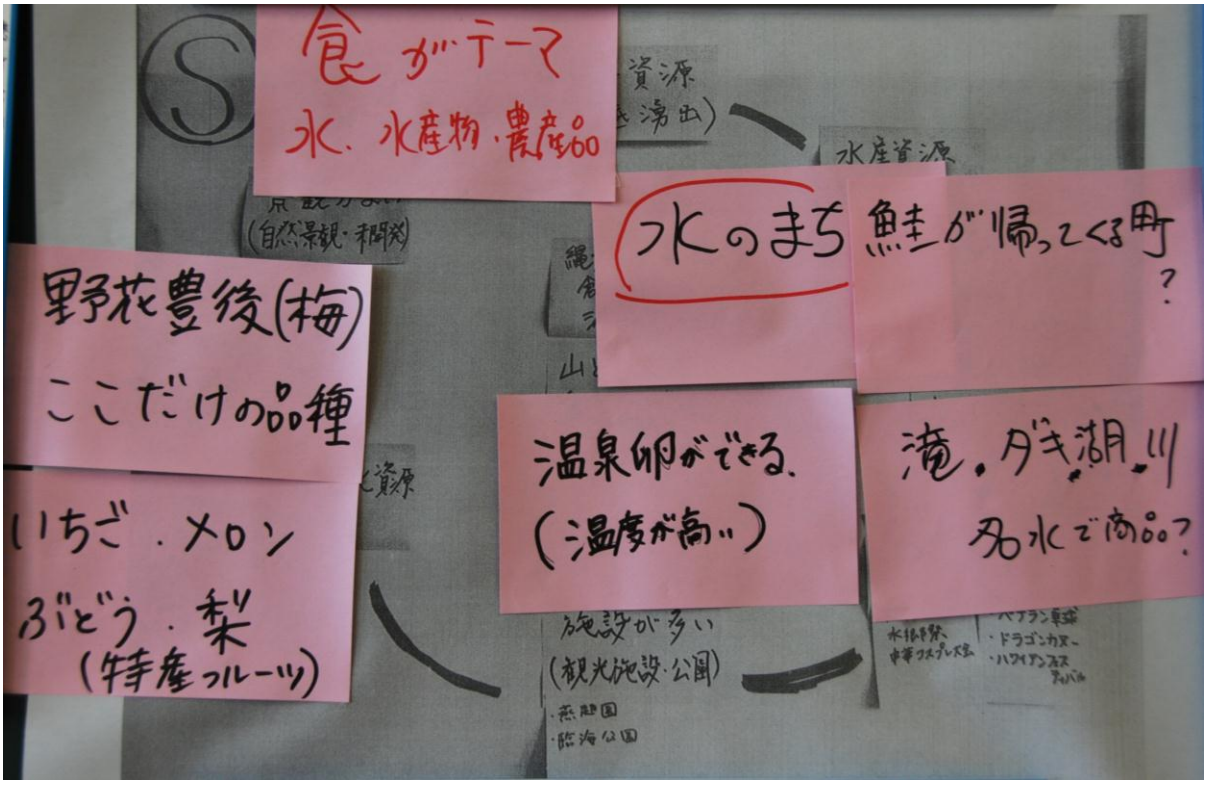
それでは、観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームが一番早く集まってきていたので、よろしくお願いします。（２つのグループで発表）

（宮川委員）

昨日の分析結果を踏まえて、色々な意見を紙に書いた訳ですが、必ずしも文脈にまとまりがあっている訳ではないので、ある程度似通ったものを集めさせてはもらいましたが、最終的にはなかなか一つの話にはならなかったもので、それぞれ順次お話をさせていただきます。

まず、強みの話をしている中で、色々な意見が出ましたけれども、だいたい二つに集約できたかなというような感じです。まず、特産品の話をする中で、それぞれ専門的な立場とか、皆さんがよく知っておられるようなことを紹介いただきました。その中の一つに、例えば野花豊後という梅は、ここだけの品種です。これは、食べるだけではなくて、花がたいへんきれいだと、白魚などの漁業の話もしておりましたけれども、すくう時なども梅の花がすごいきれいだというのは、実としての梅だけではなしに花も含めたいいものがあるというような

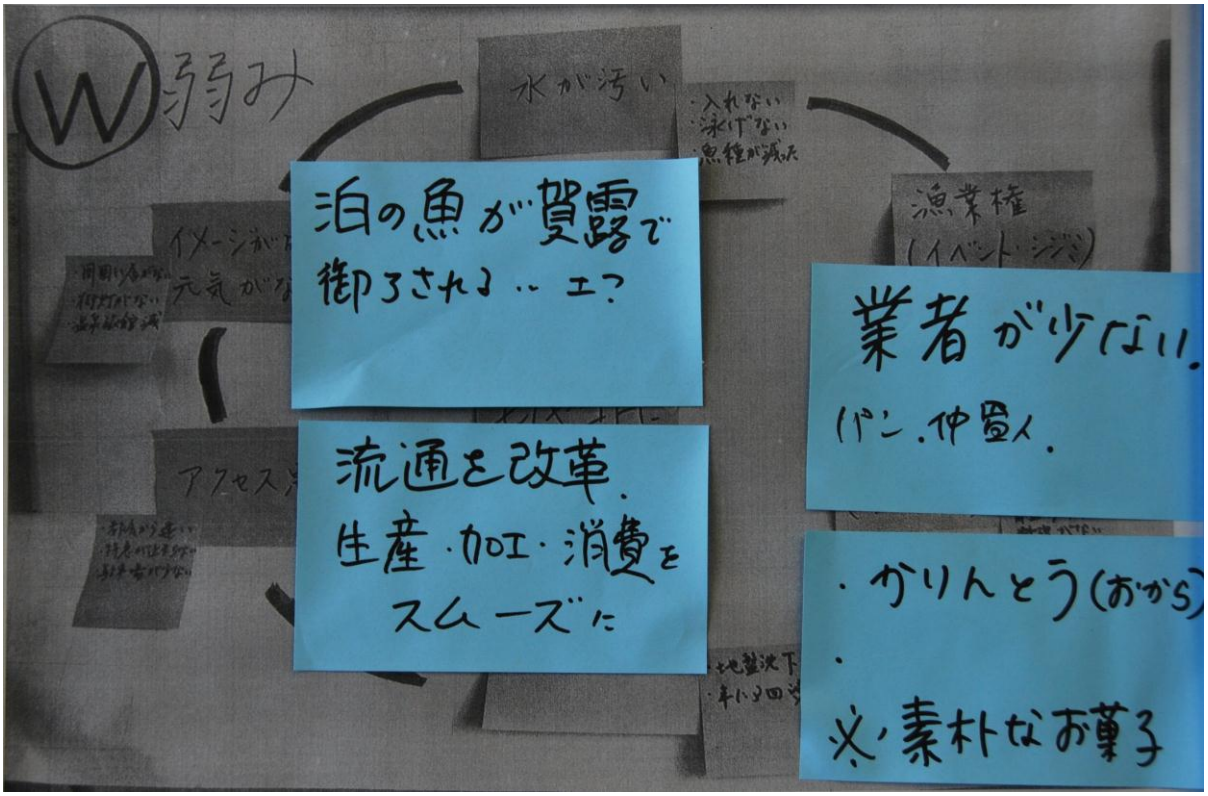
話が出ていました。それから、農産品でひとくくりになっているけれども、イチゴ、メロン、ブドウ、梨と各季節の特産のフルーツがたいへん豊富であって、有名ではないかも知れないけれども、県内ではイチゴは湯梨浜町が一番の産地であるというようなことが抜けていないかなという話がありました。これらは、産品の売りということでくくれる話かなというふうに思います。それから、いくつか出た中で、例えば鮭を放流しているんだけれども、それが帰ってきているのであれば、鮭が帰ってくる町というのも強みといいますか、ＰＲになりはしないかとか、町内に滝が二つある訳ですけれども、車で行ってすぐ見れるような、山の中にある深山幽谷にある滝ではなくて、車でパッと見に行ける滝、立派な滝が二つもあるんですけれども、そういうものもありますし、宇野には名水の地蔵ダキというのもありますし、まして池ですね、東郷池や原池の池、それから川もありますし、それらの名水というキーワードでくくって何かできないかなということもありました。それから、水に近いかどうか分かりませんけれども、温泉たまごができる温泉というのはあまり多くなくて、近辺ではここだけではないかなという話も出ておりました。たまごの自動販売機があって、そこで買って、足湯のところですぐゆでてできるというのは、一つ面白いモデルだなというようなことが出ておりまして、食がテーマかなと。食がテーマというのは、水とか、水産物とか、水に関係してくる農産品とかというのが、強みをまとめて一本の縄によっていったら、何かそういうイメージが出てこないかなというような話が出ておりました。



東郷湖の強み／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームＡ

次に、弱みの方ですけれども、話をうかがわせていただく中でびっくりしたのは、泊で魚

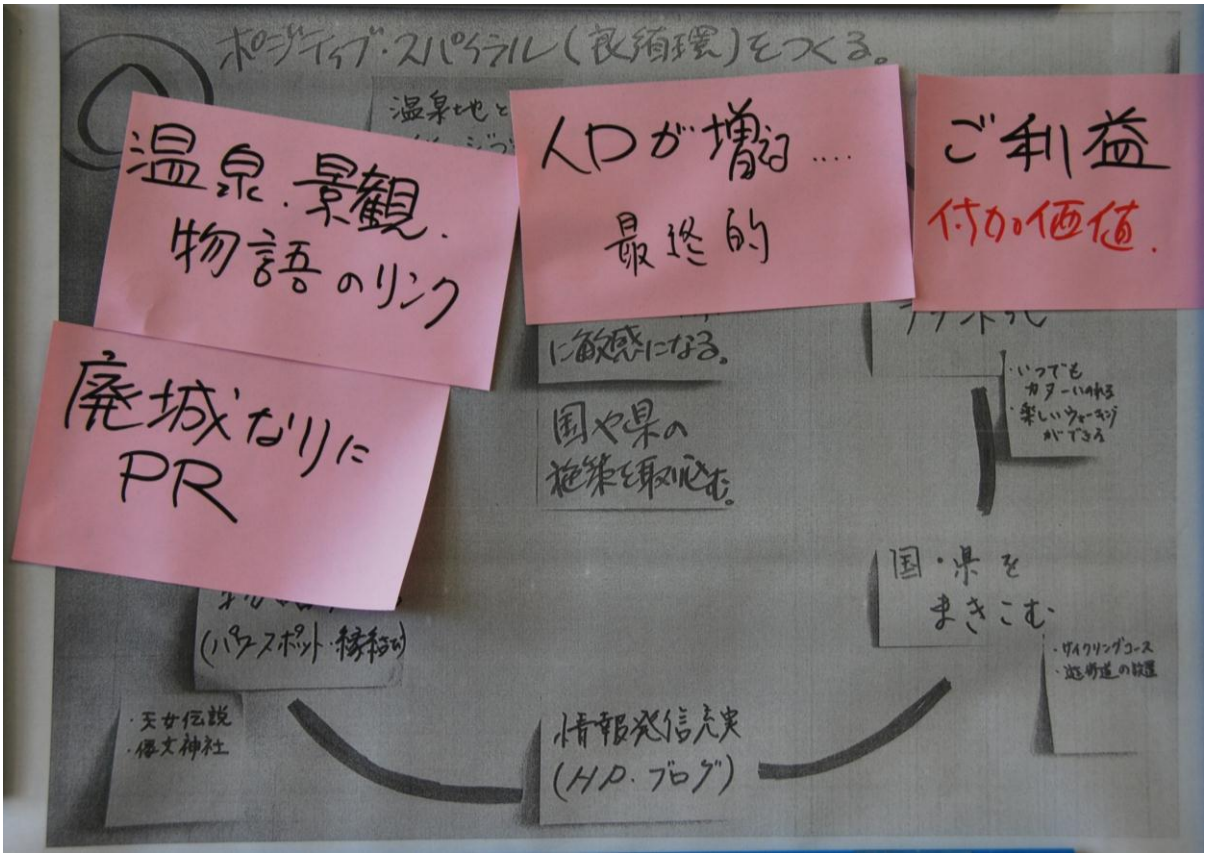
が揚がるんですけれども、泊では仲買いさんの数が揃わないとかということで、賀路まで持って行って、賀路で卸をされるそうで、地元に泊で揚がった魚が流れている訳ではないよというようなことを初めて知ったようなところもありまして、びっくりさせてもらいました。業者が少ない、仲買い人がいないということだそうです。その他、ゆりはまバーガーみたいな面白いものを考えたらということで色々動いたんだけれども、町内にパン屋さんが２軒あるんですが、学校給食のパンをさばくことで手一杯で、他のことがなかなか難しいと言われたそうですけれども、そういう意味でも業者が少ないと。特産メニューを考える中でも、なかなか加工業者であるとか、そういうところの協力が得られにくいと。加工所の味噌をつくる時期になると、順番が空いていなくてなかなか自分の番が回ってこないというようなことも出ておりました。ここで集約するとするならば、流通を改革しまして、生産、加工、消費というものを、言い古された部分はあるかもしれませんけれども、地元でコンパクトにして、スムーズにして、求められているものを、特色のあるものを地元に提供するようなブレークスルーができないかな、今の現状を変えることはできないのかな、そうすれば何とかならないかなという話が出ておりました。



東郷湖の弱み／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームＡ

良くするための機会ということですけれども、うまくまとまりませんで、バラバラと貼っております。簡単に説明しますと、温泉、景色がいい、それから、物語というのがありましたけれども、バラバラではなくて、横に束ねて、リンクさせていくということが必要なんじゃないかなということがありました。それと、逆転の発想で、廃城なりにＰＲと分かりにく

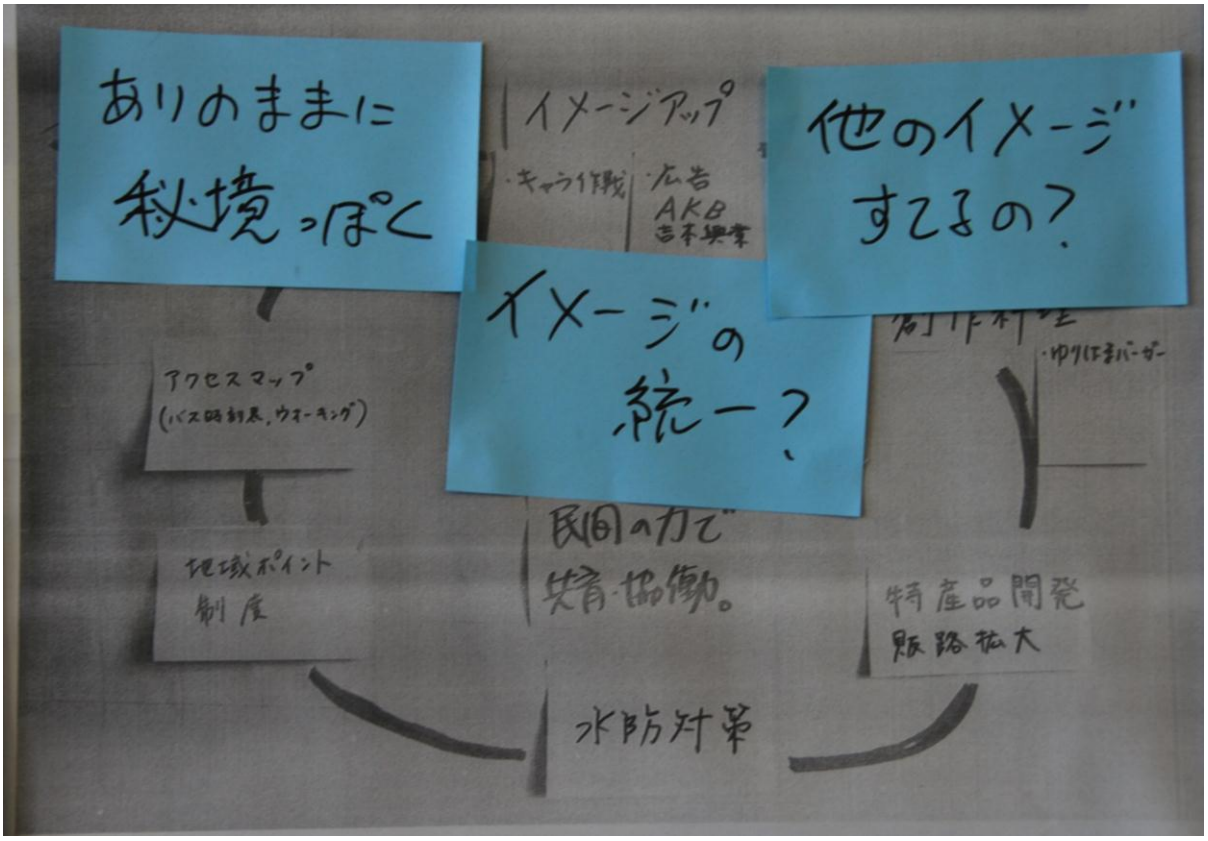
く書いてありますけれども、貴重なお城などがあるんですが、今、草ボーボーになっていると。それを整備するというのも一つの方法でしょうが、史術に基づいた整備でないとなかなかマニアの方はかえって良くないという部分もありますので、廃城なんだから廃城なりに草ボーボーというのをＰＲするという逆転の発想もあっていいんじゃないでしょうかということがありました。それから、パワースポット的なご利益という、付加価値ですね。これは、商品開発でも、例えばくじが付いていて運勢が占えるとか、色々な意味でのご利益というものをもっと見直してもいいんじゃないかなと。それから、委員さんのお一人から、最終的に人口が増えるようにしていかないとうまく回らないんじゃないのというようなことがありました。委員さんの中でも視点のレベルの色々違いがあって、短期的な目標や問題を考える見方もあれば、中長期的なもので考えられる方もあって、なかなかそのあたりが今日は運びが上手にできなかったんですけれども、人口が増えるような何か方策というものにつなげていくという視点が大事ではないでしょうかということがありました。



東郷湖の強みをさらに強くする／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームＡ

テーマごとというのがうまくまとめられなくて、乱雑になってしまいましたけれども、東郷池や湯梨浜町のイメージの統一というものに対して、もうちょっと考える必要があるんじゃないでしょうかと。例えば境港が妖怪なら一本、妖怪一本プラス魚、というように絞って、それだけで一点突破を図っている。いいように作用していると思うんですけど、じゃあ湯梨浜町は何なのか。池の水という方向でいくのか、グラウンド・ゴルフでいくのか、町長が冒

頭で説明した天女でイメージを集約していくのか、戦略的には統一した方がいいということは分かるんですけれども、イメージを統一することによって、他の数々挙げられた美点というのがかき消されてしまうといいますか、後ろに引込んじゃうというか、そういう部分というのはどうなんだろうと。その部分をもう少し考えないといけないのではということがありましたけれども、話が深まるまでに時間がなくて上手にまとめられませんが、そういうふうな意見が出ていたということを紹介させていただきます。



東郷湖の弱みを消す／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームＡ

（福井総合ファシリテーター）

ありがとうございました。（拍手）

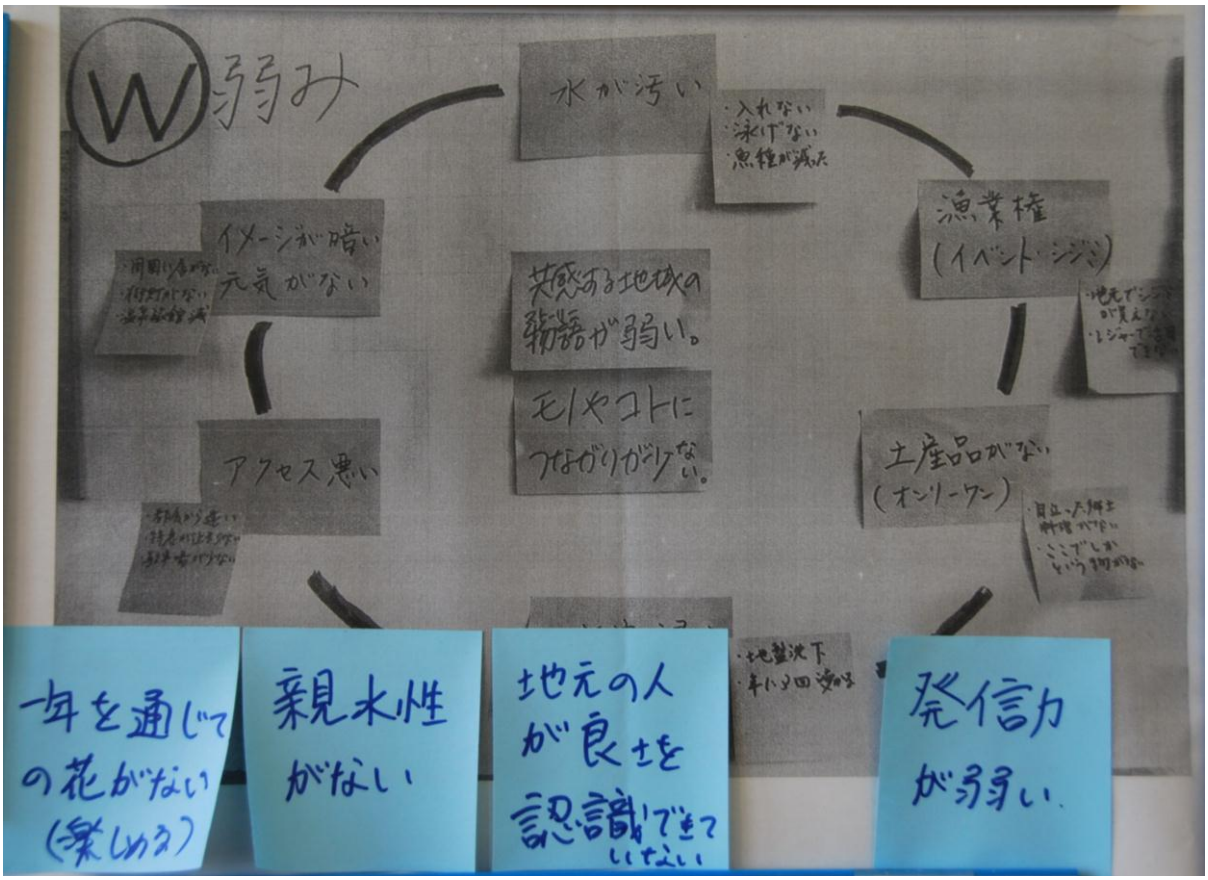
これは、野花豊後、梅ですか。ちょっとこういうものだよと説明してくれる人いませんか？

（杉山委員）

野花豊後という梅の品種なんですけれども、鳥取県の梅の生産の中でも、特に湯梨浜の野花地区で植えられている梅というのは、５cm ぐらいの果実を付けるとても大きな梅で有名でして、肉厚なのでだいたい梅酒ですとか、焼酎に漬けても実まで食べられるということがあったりします。花の時期なんですけど、だいたい梅の花は白と赤というのが多いんですけど、ここは薄いピンク色をしたちょっとかわった花が咲きますので、そういったツアーも観光協会でしておりまして、もうちょっと有名にしていってもいいんじゃないかと思われる梅です。

（福井総合ファシリテーター）
　野花梅、野花豊後と二十世紀梨のカップリングというのはできないですかね。
（杉山委員）
　ジャムはあります。
（福井総合ファシリテーター）
　ジャムはあるね。何かその話を聞いて、二十世紀梨と野花豊後の、梅と梨のジャムカップリング、何かそういうことをちらっとひらめきましたけれども、確かに、ここだけの品種、食べていないので分からないんですが、おいしいんですよね？（おいしいです。・・・）紀州とか、梅でいうとあそこもそうですよね。鳥取？鳥取は梅つくっていないか？因幡はないですね。柿か？柿ですよね。そういう意味でいうと、もともと二十世紀梨だってどこだってやればやれたんだけども、ここの地域の人たちが頑張ってつくったということで言うと、思い入れとかね。そのあたりのマーケティングの問題等々考えればあるのかなと。それから、ここのイメージの統一というのは、無理やりイメージの統一をしてもしょうがないと思うんですけども、大きな絵が描ければその中に色々なアイデアも全部リンクさせられるという、そういうことだと思うんですね。宮川さんがちょっと心配していた、何かを出せば何かが引込んでしまうというそういう話ではなくて、そこのところがこれからの、大きな物語をつくった時にこういうふうに出てくる。冒頭言いましたけれども、天女の話をしたら白鳥の話はダメみたいなね。白鳥の話をしたら天女が一緒のもだと分かる。そういうことを考えていくというのもポイントかなというふう思いますよね。景観と温泉と物語をリンクさせるというのもね、これも先程言った統一したイメージづくりというものにもつながるんじゃないかと思いますけどね。時間がないので、町長の提案に対してこれは行くぞというところまでいかなかったかもしれませんが、分科会で深めていただければと思います。それでは、続いてお願いします。
（谷口委員）
　それでは発表します。まず、話の進め方なんですけれども、強み、弱みについて取りまとめたものにないものを挙げてみようということで話を始めたんですが、見てのとおり弱みしか出てこなかったんですけれども、それを紹介させていただきます。

まず、地元の人が良さを認識できていないというような話がありました。これは、天女伝説にしても、その他の色々な資源にしても、地元の人が知らないことがちょっと多いのではないかと。さくら工芸品工房の大庭さん（北九州市出身、以前の活動場所が米子市）の方が地元の人よりも知っているような状況というようなことがあったりして、地元の人が良さを認識して、地元の人が口コミで広められるような話になればいいのではないかというような話が出ていました。続きまして、一年を通じての花がないということなんですけれども、桜を植えるという話がありましたが、それ以外でも四季を感じられるような花を植えていったらいいのではないかというようなことが出ていました。親水性がないということなんですけれども、せっかく湖という資源があるんですけれども、カヌーやボートやちょっと水辺で遊べるところがないというところが弱みなのではないかということで意見が出ていました。後は、いいものはたくさんあるんですけれども、発信力が弱いというようなことがあるのではないかという意見が出ていました。



東郷湖の弱み／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームＢ

ここには貼ってないんですけれども、何か柱をつくって振興していくようなことを考える上で、これは、町長の天女を使ってＰＲしていったらどうかという夢の中で話されていたことを受けて、女性中心で考えたらどうかと。天女は女性ですし、天女に会えると、天女になれる町ということで発信していけば、すべて女性につなげて考えていければいいのではない

かと。例えば、運動、ウオーキングにしてもダイエットを、温泉、はわい温泉は、昔は子宝の湯だと言われていたそうなんですけれども、そういうことも積極的に発信したり、今、お土産で温泉水を使った石鹸というのを考えておられるそうですので、美容ということに関連付けて、女性が来やすい、楽しめるような地域につくり上げていけばと思います。後は、シェルブールの方がいらっしゃいまして、先程も出ていましたが、野花豊後を使ったスイーツですね。ケーキとか、ソフトクリームとかはどうかという意見が出ていました。女性が動けば男性も後からついてくるということで、女性をターゲットにして考えていければいいのではないかということで、簡単ですが以上で終わらせていただきたいと思います。

（福井総合ファシリテーター）

何かここでも野花豊後の話が出ましたね。野花というのは、野の花ですよね。不思議な、当て字だったかなという気がしないでもないですけど、東郷荘絵図の中にも出てくるんですよね。出てきませんでしたっけ？別所と国信は出ているんですよね？別所は出てる。長江が出てる。そういう意味で、野花については、梅は健康の問題などを含めていっても非常に面白い素材かなと思いますね。先程フルーツの話も色々出てきましたけれども同じことですね。最後ちょっと時間がなかったと思いますが、大事な話をされましたね。女性ですよね。私は昨年、平城遷都１３００年のチーフプロデューサーを奈良でやったんですけれども、女性が圧倒的に多かったです。特に、東京から来られた方ですね。女性が６割、６５％ぐらいが女性ですね。これは、最近の観光地のトレンドなんですが、女性が来ているところの方が伸びているんですね。京都も奈良も同じです。男性ばかり集めていた大阪とかですね、これはほとんど沈没ですね。北新地なんてのはもう誰も行かないみたいなこういう構造ですね。要するに、サラリーマンが会社の金で酒を飲んでいるような場所というのはもうほとんど全滅です。ですから、そのうちにそういうサービスをやっている温泉地や旅館も全滅すると思います。ですから、女性が健康のため、自分を磨き上げるため、そういうために様々な参加性とか、体験性とかですね、そういうものが揃っているところ、これが非常に大事なんです。京都と奈良などは、だいたい女性が「こっちこっち」と言っていますよね。男性は何のために来ているかというと「アッシー君」ですよね。運転をさせられているという、そういう構造なんですけれども、そういう大きな観光地の仕組みみたいなものを見ているとよく分かりますね。イギリスの湖水地方に行くと日本の観光客がいっぱい来ていますけど、湖水地方の日本の観光客のだいたい７割を超えるのは女性ですよ。男性は顎が上がってビールを飲んでいますね。ですから、時代の構造というのは大きく変わっていますから、ここでちょっと議論で出ていた女性が好きになる、健康とか、環境とかですね。これからの少子高齢化社会の持っている重要なところですよね。それから、神戸花鳥園というところに行かれた方がいますか？誰も知らない。神戸花鳥園というのは、今、すごい人を集めているんですけどね。ここは、おじいさん、おばあさんが多いんですよ。おじいさん、おばあさんが幸せ感を持つような花の大国なんですが、ここで死んでもいいやという人もいるそうですけれども、そこが何で伸びているかというと、小学校にいくまでの未就学児がタダなんです。だから、孫を預かったおじいさんとおばあさんが、せっせとそこに通っているというそういう場所ですね。た

だそれだけではなくて、おじいさんとおばあさんと子どもたちが、花や鳥に触れて、学べる、そういう仕組みをちゃんと持っているんですよ。一種の環境教育とか、自然教育ですね。そういうようなものなんですね。おじいさん、おばあさんが孫に自慢できる、両親には教えてもらえないけれども、自分たちは教えられるというそういう側面ですね。このあたりのところも是非、戦略的に考える、湯梨浜町が戦略的に考えるものとして女性というのはある。町長がそこまで考えて言っているかどうかは知りませんが、天女という素材はそういう大きな物語をつくるものになり得るんじゃないかなと、そういう感じを受けているんですけどね。そこは追求してみていただいたらいいのではないでしょうか。

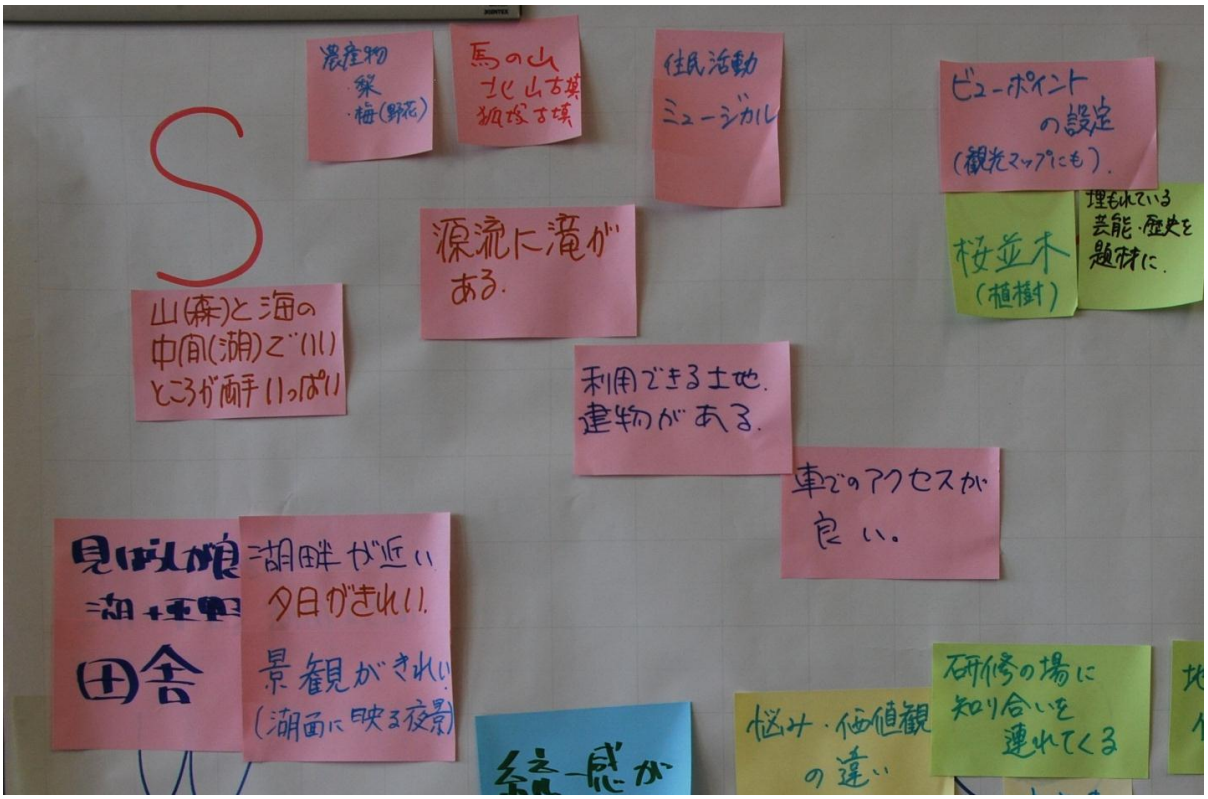
ありがとうございました。（拍手）

次は、イベント・コンテンツ開発チームお願いします。（１つのグループで発表）

（西原委員）

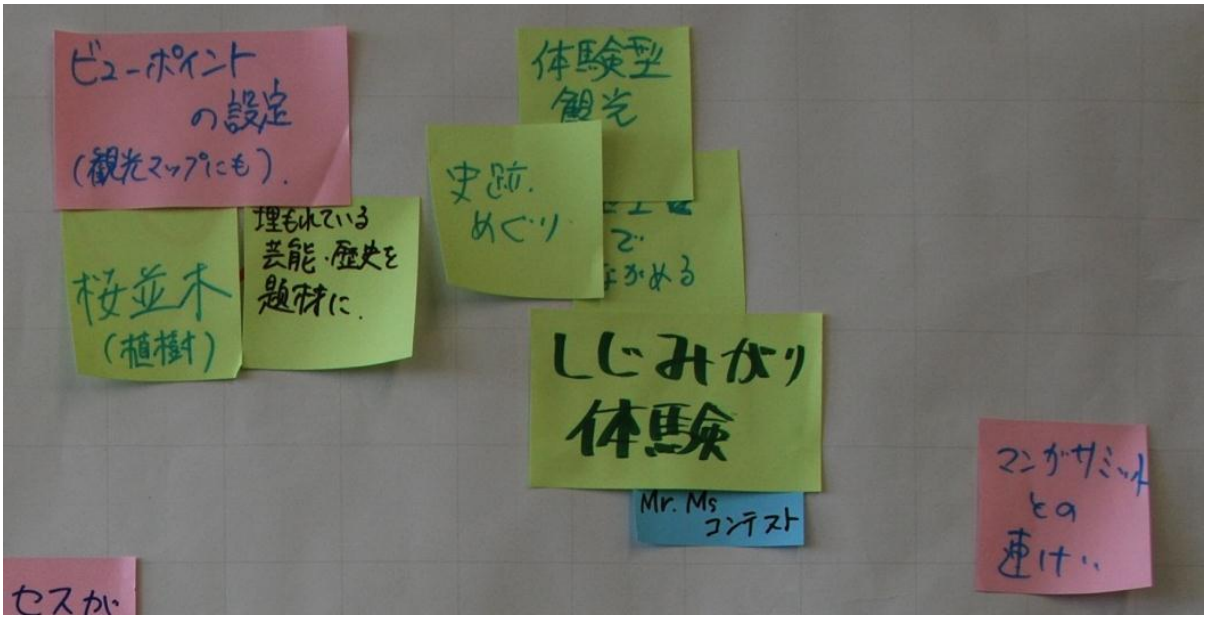
それでは、イベント・コンテンツ開発チームです。最初２つのグループに分かれまして、話し合ったものを終盤ですり合わせて一つにしました。色々意見が出まして、かなり皆さんやる気がありまして、早くもこういうイベントをしたいということがたくさん出たんですけど、その中でなるべく広い意見をまとめました。

まず、強みの部分ですが、最初に見せていただいた「ＳＷＯＴ分析」の足りないところということが基本で話したところ、農産物、池の資源だけではなくて、梨や梅などがあるんじゃないかということ。それから、このあたりには、山陰地方でも一番、二番目、三番目、そのあたりになる北山古墳とか、馬ノ山古墳群とか、狐塚とか、そういうものがあり、そこも大事な資源だということ。それから、源流に滝があるとか、色々な資源の話が出ました。大事なところで、住民活動が最近盛んになっていると。ミュージカル活動なんかをやっておられますし、環境活動ですか、ゴミ拾いなども盛んになってきています。そういったことも大事じゃないかということですね。後、利用できる土地や建物がたくさんあるということです。跡地利用などが、盛んに町が進めておりますけれども、そういうことなんでしょうかね。後ですね、見晴らしがよい、田舎の風景、夕日がきれい、景観がきれいということも出ていました。湖畔が近いとかですね。



東郷湖の強み／イベント・コンテンツ開発チーム

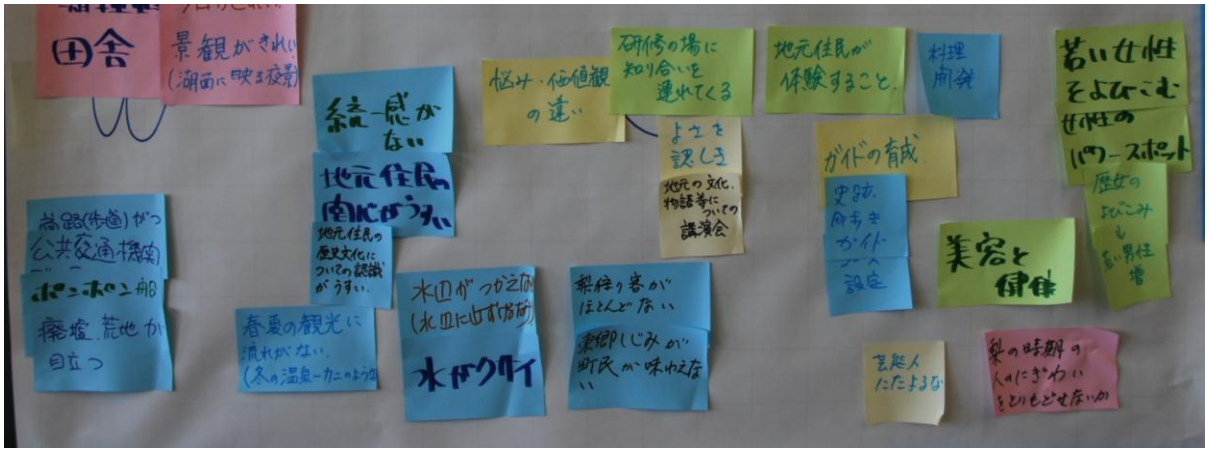
後、それをさらに発展させていくための要素ということなんですけど、ビューポイントの設定ですね。それから、桜並木を荘園絵図でよく見ると、橋津の川のところだったらクランクになっているんですね。そのクランクをたどって桜並木を設定すると、今、大きな改修した太い川が海に向かっているんですけど、当時の古の形状が目に見える。そういったアイデアも出ていました。埋もれている芸能、歴史を題材に、もっとアピールしたらということ。後、体験型観光という目の向け方が抜けているんじゃないかというようなことがありました。史跡めぐり、それから、池の上で丘の方側を眺めてみると、これまた違った風景だということの意見もありました。後、シジミ獲りですか、潮干狩り的にやるイベントですね。近年あったようですけど、そういうイベントもどうかということですね。それから、天女だけに限ったミスター、ミスのコンテストという意見もありました。後、マンガサミットとの連携というのはいいんじゃないかという意見が出ていました。



東郷湖の強みをさらに強くする／イベント・コンテンツ開発チーム

ウィークポイントなんですけど、昨日も意見があったんですけど、合併した後、色々な素材が、３町村のものが一つにまとまろうとすると、それぞれがバラバラになってしまって統一感がないという考え方ですね。後、地元住民の関心が薄いというようなことですね。後、歴史、文化についての認識が薄いんじゃないかという意見がありました。それで、研修の場をつくって参加させようとするんですけど、なかなか参加が少ないと。だったら、知り合いを連れて皆で行こうというようなことをしようという意見もあったんですけど、逆の悩みで、人それぞれ価値観が違って、無理やり連れて行っても話に合う、合わないというのがあって、そのあたりは難しいぞというような悩みみたいなこともちらっと出ていました。後、良さを認識してもらいたいと。とにかく、そこから始まるんじゃないかという意見ですね。後、地元の文化、物語についての講演会、ここにつながってきます。こういったものをするんですけど、悩みというのは結論が出ないままにスパイラルになりかねないというところですね。それと、水が臭い、どうしてもこういったイメージはあるということですね。梨狩りのお客さんが最近はほとんどない。シジミを町民が味わえないというところが残念なところですね。認識が薄いというところについて、地元住民がもっと体験することが大事なんじゃないかということ。それで、ガイドの育成。それから、史跡とか、まちあるきガイドの育成とか、コース設定というのが大事なんじゃないかということ。後、先程も出ていましたけど、若い女性を呼び込むことが大事なんじゃないかなということで、女性のパワースポットの設定、歴女や鉄女という言葉があるようですけど、そういった呼び込みですね。そうすると、若い男性が町に入ってくるというような意見です。ちらっと意見があったんですけど、全体のイメージとして、梨の時期の人の賑わいというのが昔あったんですけど、そういうことを知っている世代というところで、９月の連休ぐらいになると観光バスが梨狩園の方に通っていた、そういった賑わいを知っている者としては、そういうのを何とか取り戻したい。そんなイメ

ージの話もありました。以上です。



東郷湖の弱み／イベント・コンテンツ開発チーム

（福井総合ファシリテーター）

何か最後のところもね、梨の時期に人が来るというイメージというのは、私も共有できるなというふうに思うんですけれども、今、発表されたそれぞれのチームの中で共通しているのは、地産地消ということ。地産地消ということを湯梨浜町はできるのかというところでしょうね。今、全国で地産地消の考え方というのをどういうふうにするかということについてかなり知恵を出しているんですけど、泊の漁師さんが獲った魚は賀路で卸すというね、おそらくそこで値を付けてもらっていると。仲買いが泊には来ないと。ある一定程度の量がまとまったところでないとダメだと。例えば、皆さんがよく知っている伊豆地域というのがありますよね。伊豆地域も相当漁業が盛んなんですよ。だけど、伊豆地域で獲れた魚で、自分のところで値が付けられるのはキンメダイという、これは、下田港というところで、唯一それだけ値が付けられる。後はどうしているんだというと、みんな東京の築地にいっちゃうんです。そういう問題があるので、絶対そういうことにしたくない。つまり、築地で付いた値段が戻ってくる訳ですから、高くなっちゃう訳ですよね。ということで、地産地消の方法をとりたいということで、早川という小田原の隣にある漁港は、そこで獲れた魚を直接、箱根の旅館やホテルに入れられるような、言わば生産者と消費者との協定をやって、そういう仕組みづくりをやっているんですね。ですから、アイデアはあるんだけども、地産地消をするためには何を消して、何を加えて、それをやるためにはどうしたらいいのかということについて、結構たいへんな問題がありますよね。漁業権の問題とか、卸の問題とか、価格設定の問題とか、シジミが地元にいった時に旅館は食材の費用が高くなってしまって、売り上げの利益率が下がってしまうから買いたくないとかですね。そういう話も出てきたりするでしょ。そのあたりのところを含めて、地産地消というのは今、すごい共通のテーマなんだけれども、鮮やかに成功しているというのは今のところなかなかないんですよね。だから、そこをどういうふうな方向でやっていくのか。そうすると、まず成功事例を小さいところから、バリアーがあまりないところからやろうというふうになると、先程ちょっと言いましたけれども、

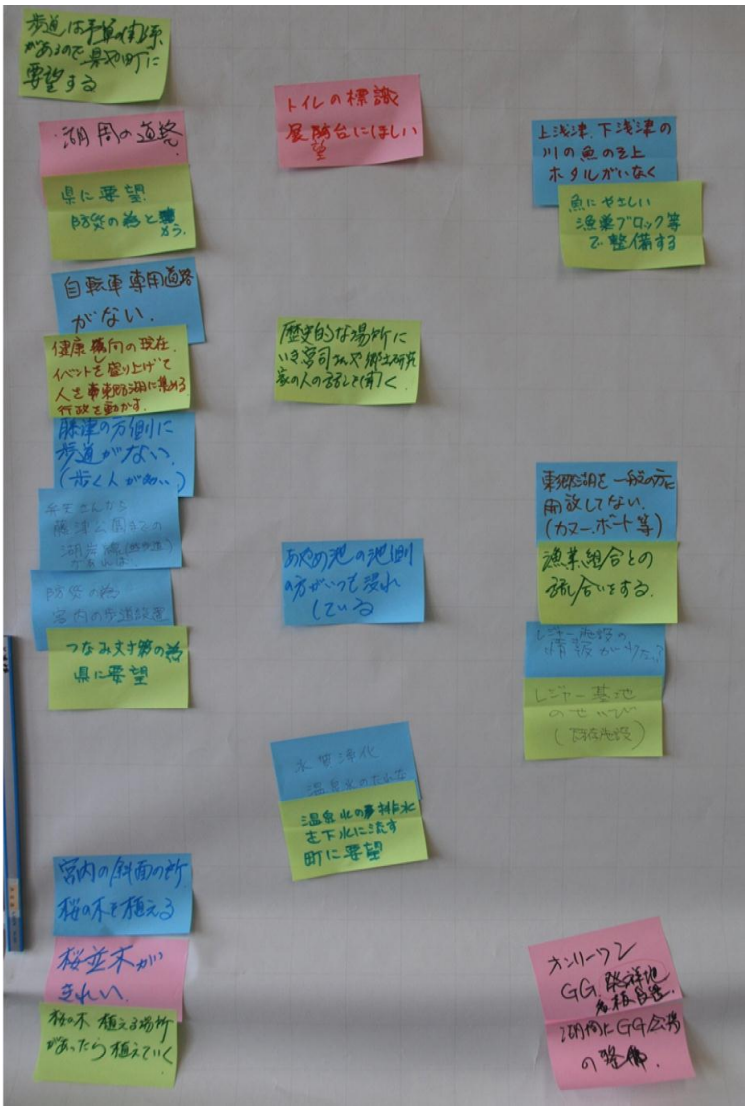
二十世紀梨だとか、野花豊後だとか、そういうやりやすいところから地産地消みたいなものを進めていくという方法もあるのかなというふうに思いますね。それから、歴史、文化、自然を学ぶ機会ですね。要するに、ボランティアの話も出ましたけれども、私も平城遷都１３００年でボランティアを全国募集いたしましたけれども、奈良検定一級の人が１７０名集まってきました。千葉県から来た人もいます。岡山県から来た人もいます。何で来たんですか、お金は出ませんよ、ボランティアですからと言ったら、私は奈良女子大の卒業生で、こういう機会をずっと３０年間待っていましたとか、夫と別れて３か月間は是非このボランティアに打ち込みたいとか、そんな人がいるんですよ。ですから、地元の自然とか、歴史とか、文化とか、そういうものの語り部だとか、ボランティアをつくろうとするとですね、これもかなりしっかりした仕組みをボトムアップでつくっていくような努力がいりますね。でも、３年ぐらいやればできます。これは、私も平城遷都１３００年でそういう組織づくりをやりましたけれども、今、それが続いているんですね。やっぱり、それが一番残るんですよ。だから、そういうものについても、ふるさとのことのすべてを、言ってしまえば湯梨浜学ですよね。或いは湯梨浜検定ですよね。そういうものを今、始めてらっしゃいますけども、小さなガイドブックをつくっておられますよね。湯梨浜の宝（湯梨浜の誇り百選）というんでね。それを通った検定一級の人とか、二級の人とかですね。もしかしたら始めてもいいかもしれないし、湯梨浜町だけでやると少ないので、鳥取検定とか、伯耆の国検定とか、何かそんなものを考えながら進めていって、小さい子どもたちも大人たちも参加できる仕組みを考えるというのもあるかなというふうに思います。

それでは、今のイベント・コンテンツ開発チームにもう一回拍手をお願いいたします。次は、社会資本整備チームお願いします。（２つのグループで発表）

（石川委員）

社会資本整備チームなんですけれども、ちょっとまとめるのに苦労いたしまして、この一枚にすべて書いております。それで、うまく説明できないかもしれませんが、一枚ずつ説明したいと思います。

まず、強みということなんですけども、湖周の道路ということで、東郷湖の周辺は道路で一周回れるということが利点ということになっておりまして、その強みに対して、よりもっと強くするということに対しまして、県に要望ということで、防災のためというような理由を付けて、もっと道路の整備をしていただくというようなことにしたいという意見が出ておりました。後、桜並木がきれいという意見がありまして、それをもっと良くするために、桜の木を植える場所があったら、もっと町民の人たちが植えていくというような意見、宮内の斜面の場所にはもっと桜の木を植えるというような意見も出ておりました。後、オンリーワン、グラウンド・ゴルフ発祥の地というような意見がありまして、泊が発祥の地ということでグラウンド・ゴルフがあるんですけども、それで大会等をやっております。そういうものを泊ということだけではなく、湯梨浜町がグラウンド・ゴルフの発祥の地であるということを日本全国、世界中にも発信していけば、もっといいものになるのではないか。その情報を周りに発信していくというようなことをすればいいのではないかということが出ておりました。



東郷湖の強み・弱み・強みをさらに強くする／社会資本整備チームＡ

弱みの方なんですけども、自転車道路がないという意見の中で、健康志向の現在、もっとイベント等を盛り上げまして、人を東郷湖周に集めるということから行政を動かすということで、自転車道路をつくっていただくような形を積極的に進めるということです。後、それに類しまして、藤津の片側に歩道がないというようなことが出ております。弁天さんから藤津公園までの湖畔線に遊歩道がないというようなことも出ております。後、同じようなことなんですけども、防災のための宮内の歩道設置ということで、津波対策等のために県に要望というような意見が出ておりました。後、歴史的な場所に行き、宮司さんや郷土研究家の話を聞くというような意見、あやめ池の池側の方がいつも水に浸かるという意見が出ております。後、水質浄化、温泉水の垂れ流しということがマイナスとして出ておりまして、温泉水の排水を下水に流すよう町に要望するという意見があります。後、上浅津、下浅津の川の魚の遡上、蛍がいなくなっているということから、魚にやさしい、魚の巣となるブロック等の整備をするというような意見が出ております。最後なんですけれども、東郷湖をもっと一般の方に開放してほしいということで、カヌーやボートを東郷湖でできないものかということで、漁協との話し合いをするという意見が出ておりました。それに類しまして、レジャー施設の情報が少ないということで、もっとレジャー基地の整備をしたらという意見が出ておりました。以上です。

（福井総合ファシリテーター）

今、社会資本のお話をいただいて色々な考え方が出ているんですけれども、おそらく、これから県とも一緒になって周回道路の整備をしようとすると、自転車とウオークをどうするんだと、この問題というのは結構たいへんですよね。皆さんご存知のように、道路交通法によると、自転車というのは車道の左端を走りなさいと、道路交通法はそうなんです。ところが、１９６０年代後半から７０年代にかけて車社会を進もうということになって、国策で車社会にしていこうということになったために、スピードが出るとか色々な問題があるので、歩道を自転車が走ってもいいというふうに警視庁がガイドラインをたてた。法律を変えている訳じゃないですよ。道路の左端を走るということになっているんだけれども、歩道もいいというふうになってしまった。ですから、今、どういうことが起きているかというと、自転車通勤だとか自転車がいっぱい増えていて、歩道を走りなさいと親も言うんですよ。道路は危ないからって。でも、自転車というのは、道路交通法上、実は車なんです。だから、これから周回のネットワークを東郷湖の中で整備しようとすると、サイクルコースをどうつくるのか。歩くウオーキングのコースをどうするのか。自歩道といって自転車と歩道を共存させるのか。これは、結構設計上は頭の痛い話なんですよ。私は両方ほしいなと思いますけどね。ここの知恵も考えるのはすごいですよ。アメリカで一番自転車文化が進んで、自転車とウオーキングの両方が共存しているということで有名なのは、ポートランドという町なんですけれども、全米一、それから、イギリスもすごいですよね。そういうことを含めた上で、海外はどうしているのかということを含めて、やっぱりやる以上は全国のモデルになるような、日本中のサイクリストがあそこに行かないとダメだなというようなものにしないといけないなと思いますので、社会資本整備チームはそこのところ、今出た話で言うと、周回コース

はどうするんだということは結構激論になるんじゃないかなと。警察もうるさいですし、県も予算上の問題があるでしょうしね。そのあたりの工夫の仕方が大事じゃないかと思いますね。それでは、もう一度拍手。

それでは、続いてお願いします。

（中島委員）

続きまして、Ｂチームの発表なんですけれども、事前提出していただいた強みと弱みについて、それぞれ新規のものも含めて、色分けは別ですけれども、じゃあさらに強めていくにはということと、弱みについてはどういったことをやったり、新しい取り組みとしてこういうことが必要ではないかというようなことをアットランダムに貼らせていただいたというところで、まず、強みの方からご説明をしていきたいと思います。

景観がいいというところについては、先程からも話が挙がっておりますが、さらに桜で強化をしようというご意見と、最後の方で意見が出ましたけれども、四季の演出ということについては、藤津の方の桜というのがやはりイメージとしてもう付いていますので、桜からスタートして順番に花が咲いて、最終的に冬になってまた４月に藤津に戻ってくるような、一周するような四季の花の輪を東郷湖でつないだらどうかというようなご意見も出ておりました。それと、温泉資源の方については、湖底から出ているということについてもっとＰＲをしたら、珍しさがアピールできるのではないかというご意見も出ておりました。後、水産資源については、すぐにお買い求めいただけるような場所がないので、直売所を置いて、実際に目で見たものをその場でお買い求めいただけるような場所があれば、さらに強くなるだろうということです。後、ご意見が非常に多かったところの１周１２km というウオーキングを含めて東郷湖の湖周ということについての強みについては、桜で固定的なイメージを付けたらもっと強くなるですとか、当然、歩道の整備をすればさらに強くなります。ただ、一部でご意見の違う方の中には、残すべき昔らしい地道のようなところはそのまま残されて、起伏に富んだ高低差をアピールすることで、高低差もあり、近代もそうですし、古きよき日本の風景も実際に歩いて、足の裏から体験していただけるようなコースになるんじゃないか

と。後はやはり、利便性の確保というのも最低限必要だろうということで、実際歩かれてみてやはりお手洗い、先程テーマに出ておりましたけれども、女性をターゲットとした場合、最低限の環境といいますか、そういうことが必要になってくるということで、最低限のものはどうしても設備上必要ではないかということですね。最終的にはこういったＰＲをしながら、湖周につきましてはこういった強みをどんどん活かして、ノルディックウオークですとか、スポーツウオーク、そういったところのメッカに十分なれるということで、最終的な目標はそういったところに置こうという話になっております。

東郷湖の強み・強みをさらに強くする／社会資本整備チームＢ

弱みの方ですけれども、例えばここに書いてあるようなところについてなんですが、まず、水がきたないというところは、クリーン作戦にもっと町民の参加をということで書いてありますが、やはり結構このイメージをお持ちになっていらっしゃる方もあるんですが、ご意見

の中には、昔に比べればはるかにきれいになったという、もういいんじゃないかという肯定的なご意見もありました。後は、啓発的なイベントで、水質浄化のためにアシを植えたりすることをもっと積極的に行ったらどうかというご意見、そうすることで少しは良化をするのではないか。後は、漁業権による制約ということで、イベント、シジミと書いてありますけれども、現状としてやはり湖面の利用というのについては、ほとんどが漁業に集約されている中で、観光の利用であったり、先程もあったようにレジャーで利用されるために、法律的な整備ですとか、漁協との協調、そういった交渉をすれば、色々な選択肢が利用によって出てくるんではないか。十分払拭できるといったような内容でした。

東郷湖の弱み・弱みを消す／社会資本整備チームＢ

後、お土産物についても、羽衣クーヘンと書いてありますが、羽衣というテーマで、どんどん商工業者さんに新たな商品をつくる場を提供していけばいいのではないかと。最初は、数は少ないかもしれませんけれども、まずそこに集約をして、やはりそれがある程度ネームバリューが付いてくれば自分のところもという話になりますので、まずやられるところを支援されるような形で、まず一品、二品から実績をつくっていこうというお話でした。ちょっとこの水害浸水ですとか、アクセスが悪いというのに関する他の意見は挙がってこなかったですが、イメージが暗いというところについては、住民の受け入れ意識の向上を図ることで改善していこうということで、例えば町民の参加であったり、町民参加型のイベントをすることで、情報発信も地元からしていくのが当然主になりますので、地元の方がイメージが暗いと思っているようでは、到底、外に発信した時に暗くないということでＰＲすることはできませんので、まずは町民一丸となって、東郷湖があるんだというところからですけれども、意識をして、ＰＲをしていくことで少しはここも払拭できるのではないかというご意見でした。集約は、それぞれはしておりませんが、東郷湖に対する思いですとか、地域に対しての思いが熱い方が多数いらっしゃるので、本当にこういう機会で、人が集まったところには何か可能性が広がると思っていますので、引き続きこの場で議論を深めながら、一つでも実になるような結果が出せればというふうに感じております。以上です。

（福井総合ファシリテーター）

ノルディックウオークとか、フリーウオーク、それから最近は「ｉｎｇ」がつくスポーツというのは結構、ワールドゲームと言って、オリンピックの種目じゃないんだけれども、実はその方が人口が多いんですよ。だから、オリンピックの競技を見るのはいいんですけれども、あれをやると体を壊しちゃいますよね。そういう意味で言うと、ワールドゲームというのがものすごく伸びているんですよね。ノルディックウオークもそうですね。フリーウオークもそうですね。それから、クライミングみたいなのもそうですね。要するに、ツリークライミングとか、ロッククライミングとか、そういうスポーツがすごく増えているんですね。裾野が広い、世界中の人たちがやりたい、そういうものなんですけれども、そういうもののメッカにするんだという考え方は非常に重要だと思いましたし、もう一つ今日お話された中でポイントだなと思うのは、そういう周回コースを整備するということと、花、緑、そういうランドスケープ（景観を構成する諸要素。ある土地における、資源、環境、歴史などの要素が構築するシンボルや空間のこと。）、そういうものとをうまくそこに物語をつくっていく。桜ばっかりでいいかという問題もあるかもしれない。或いは、桜ばっかりの方がいいという人もいるかもしれない。そこに、さらにトイレをちゃんとうまく入れるとか、場合によっては道の駅のように「歩く駅」みたいなですね。ウオーキングの駅みたいなのがあって、そこに何かサービス機能とかそういうものがある。何かそういうものもネットワークでつくられるといいますか、そのあたりのところが考え時なのかなと思います。水質の問題とか、環境の問題も、そのことと一体的に考える。アシを植えるとか、そういうことも実は周回コースと関連させながらやる。環境も良くしていく。そういうアイデアが今日出たんじゃないかなと思うんですね。てすから、単に、物理的にコースを作ればいいというのではなくて、環境

問題も考える、女性のことも考える、それから、世界のトップになれる仕組みとは何なんだろうということも考える、そういうものをうまくブレンドするということが重要なのかなと思いました。それではもう一度拍手をお願いします。（拍手）

時間が非常に限られているという制約の中だし、ワークショップが始めてのところもあると思うんですね。発表して始めて気付くというところもありますよね。それから、人の話を聞いて触発されるという部分もあると思うんですね。ですから、私が言うことではないんですが、１０月末の第２回中間会議までには、それぞれのチームごとにワーキングのつくり方はお任せしますから、自分の意見をこのポストイットに書いて、発表して、お互いにそれぞれの意見を聞きながら、共通する部分はどこなんだろう、違う部分はどこなんだろう、これとこれとをまとめるとこんなアイデアになるんじゃないか、そういうことをできるだけ何回か繰り返していただいて、１０月末には我がチームではこれを是非やろうという、一応、第一次予選のところまで持ち込んでいただきたいと思います。そういうことで、あまり気合を入れすぎてしまうと疲れてしまうという人もいるかもしれませんが、でもそれをやることによって、この地域を深く理解する、東郷湖とは何なんだろうということも含めてありますし、それに関連する情報で町に用意してくれというものがあったら、むしろ町に要望するとか、先程言いました「湯梨浜の誇り百選」読んだことがある人います？（あまりない・・・）あるんだけども配られていない・・・。町長、それは全員に配れますよね。

（宮脇町長）

全戸配布をしていますが、まだ余分があります。

（福井総合ファシリテーター）

配布されているけれども、配布されたものは読まないという人もいますよね、信条として・・・。そういう問題も起きますから、せっかくこのチームに入ったんだから、その本を読んでみるということもやっていただいたらいいんじゃないかと思います。

＜飛行機の時間が迫る＞

それでは、私はこれで失礼しますが、町長が最初しゃべってから何も言っていませんので、最後町長に締めの話をひと言、このワークショップに参加してということでお願いできますでしょうか。

それでは皆さん、これで失礼します。

（宮脇町長）

拍手でお送りください。（拍手）

今日はお疲れ様でした。長時間の作業で、皆さんお疲れのことと思います。先程、福井先生からご説明いただきましたようなスケジュールで、町の予算のこともありますし、県の予算との係わりもございます。それらにきちんと対応するために、先程のスケジュールでやっていきたいという気持ちでおります。皆さんのお仕事上とか、そういった意味でもご迷惑をおかけすることになりますけれども、ある意味皆さんが思われたことを実現するチャンスでもある訳ですから、そういった思いで一緒に取り組んでいただければありがたいと思います。

今日はありがとうございました。

最後ですけれども、せっかく会長と副会長が決まっているんで、ひと言ごあいさつをお願いできればと思います。

（遠藤会長）

失礼します。泊の遠藤と申します。今回の名簿の立場では、ＮＰＯ法人未来というところから来ております。サンイン未来ウオークというウオーキングのイベントを今年で１１回目を開催しています。この会議で、楽しい、夢のある話を実現に持っていけるような会議にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（立木てる子副会長）

皆さんの意見を、女性の意見も取り入れるように、賑やかな会議にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（宮脇町長）

本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。